

**室戸市
まち・ひと・しごと創生総合戦略**

**平成 27 年 10 月
室戸市**

目次

第1章 人口ビジョン（室戸市人口の現状と目指すべき方向）

1. 人口動向分析

(1) 総人口の推移 -----	1
(2) 年齢3区分別人口の推移と将来推計 -----	3
(3) 出生・死亡、転入・転出の推移 -----	6
(4) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響 -----	7
(5) 年齢階級別的人口移動分析 -----	8

2. 将来人口推計

(1) パターン1（社人研推計準拠）とパターン2（日本創生会議準拠）の比較 -----	13
(2) パターン3（室戸市独自推計） -----	16
(3) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析 -----	23

3. 人口の将来展望 -----	25
------------------	----

第2章 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略

1. 総合戦略の位置づけと計画期間

(1) 総合戦略の位置づけ -----	28
(2) 総合戦略の計画期間 -----	28

2. 総合戦略の効果的な推進

(1) 総合戦略策定の視点 -----	29
(2) 進捗管理体制 -----	32

3. 基本理念と基本目標

(1) 基本理念 -----	33
(2) 基本目標 -----	34

4. 基本目標別の具体的な施策とＫＰＩ（重要業績評価指標）

(1) 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する -----	35
(2) 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる -----	41
(3) 結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる -----	46
(4) 室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する -----	50

資料編

1. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 -----	54
2. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部 -----	57
3. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の流れ -----	59
4. 市民アンケートの結果 -----	61
5. 高校生アンケートの結果 -----	71

第1章

室戸市人口ビジョン

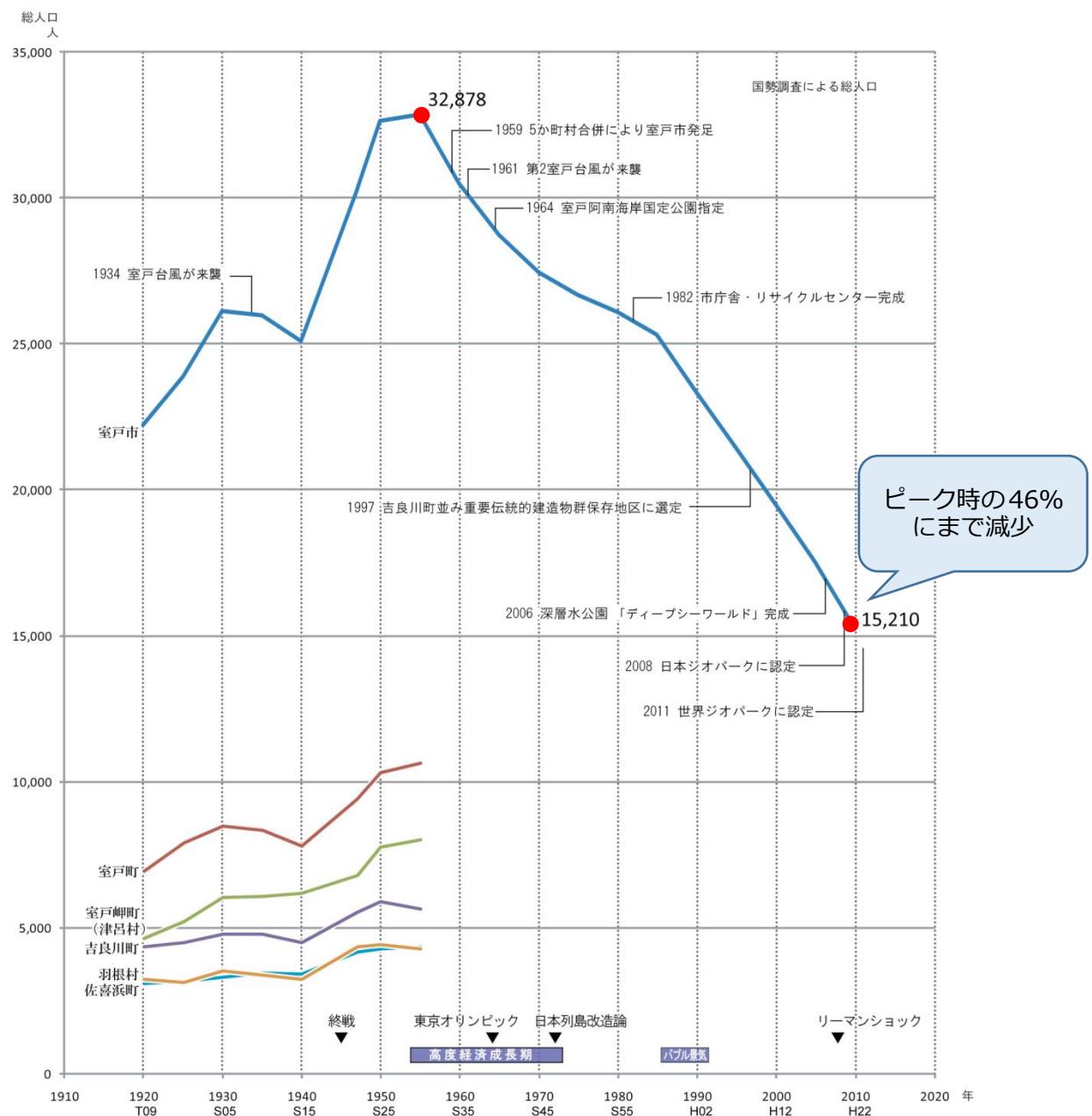
(2015年～2060年)

1. 人口動向分析

(1) 総人口の推移

- 戦前戦後にかけて、室戸町、室戸岬町、吉良川町、羽根村、佐喜浜町とも増加傾向。
- 1955(S30)年には、室戸市域人口が 32,878 人のピークを記録。
- その後高度経済成長期、バブル景気の期間を通して急速に人口が減少。特に 2000(H12)年以降の 10 年間は年率にして 3.3% と減少が加速し、2010(H22)年にはピーク時の 46% にあたる 15,210 人となっている。

【総人口の推移】



【総人口の推移】

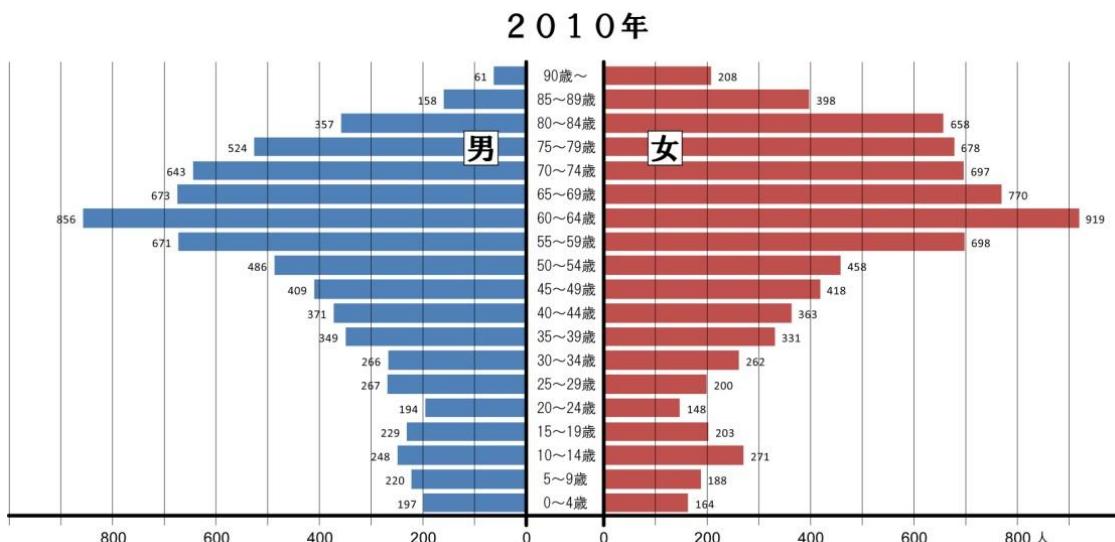
		室戸市				
		室戸町	室戸岬町 (津呂村)	吉良川町	佐喜浜村	羽根村
1920	T09	22,207	6,927	4,625	4,340	3,101
1925	T14	23,851	7,904	5,204	4,467	3,170
1930	S05	26,103	8,484	6,047	4,776	3,305
1935	S10	25,967	8,316	6,056	4,786	3,445
1940	S15	25,081	7,781	6,169	4,487	3,429
1947	S22	30,227	9,418	6,789	5,524	4,153
1950	S25	32,667	10,322	7,766	5,878	4,276
1955	S30	32,878	10,629	8,027	5,617	4,337
1960	S35	30,498				
1965	S40	28,746				
1970	S45	27,445				
1975	S50	26,660				
1980	S55	26,086				
1985	S60	25,309				
1990	H02	23,308				
1995	H07	21,430				
2000	H12	19,472				
2005	H17	17,490				
2010	H22	15,210				

国勢調査による

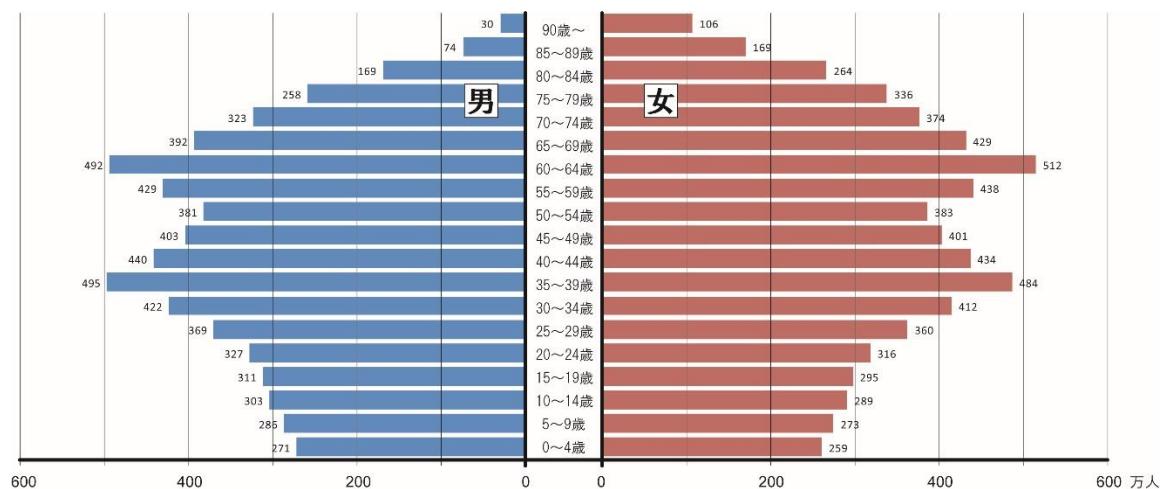
(2) 年齢3区分別人口の推移と将来推計

- 生産年齢人口は、1980(S55)年以降一貫して減少し、総人口に占める割合も1980(S55)年の64.8%から2010(H22)年の53.1%へと30年間で10ポイント以上低下した。
- この間に、年少人口の割合は22.5%から8.4%へとさらに激減している。一方で老人人口は78.8%増加し、総人口に占める割合も12.5%から38.2%へと高齢化が進んだ。
- 年少人口と老人人口との逆転は、1990(H02)年頃に発生し、2010(H22)年では老人人口が年少人口の5倍近くに達している。
- 2015(H27)年では生産年齢人口が老人人口とほぼ同等の水準にまで減少しているが、今後は老人人口が生産年齢人口を上回り、その状況が少なくとも2060(H72)年まで好転しないと推計されている。

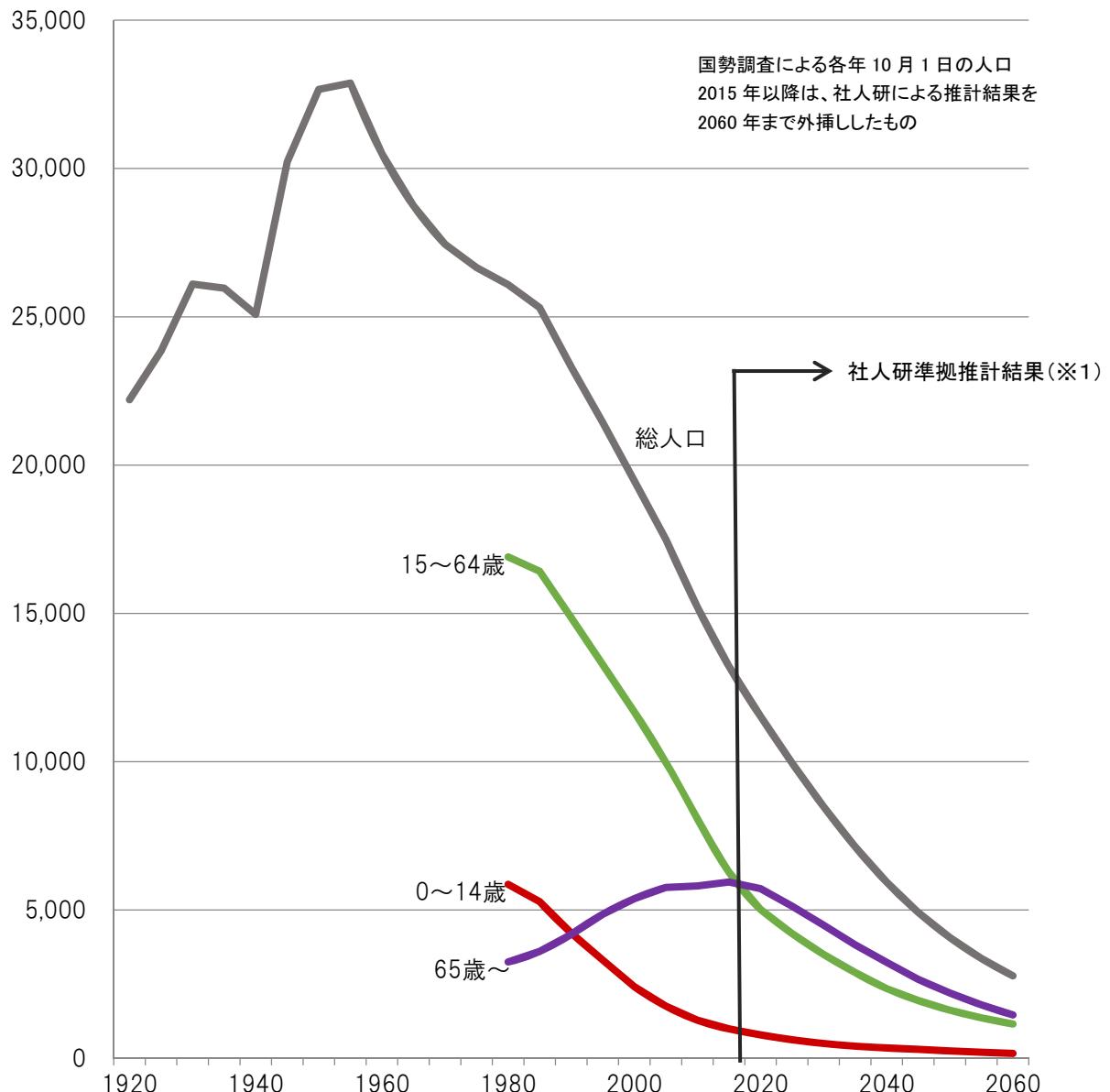
【室戸市の年齢別人口構成（2010年）】



【参考 2010年における人口の年齢階級別構成 全国】



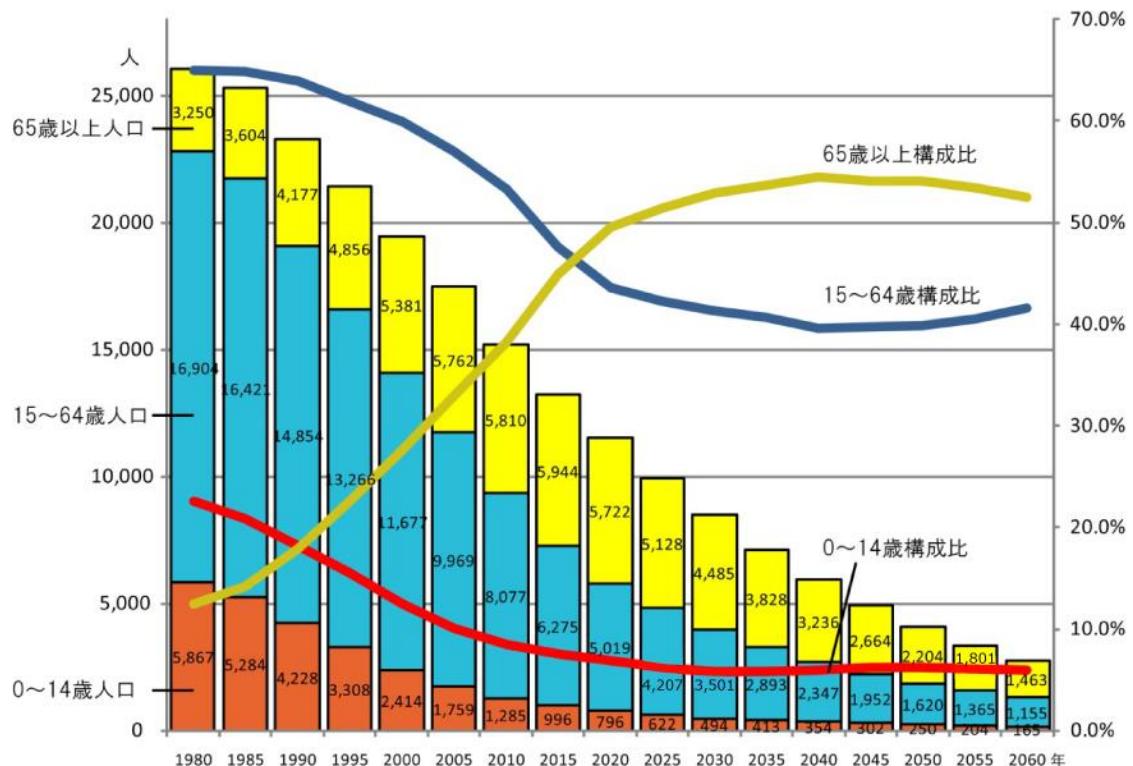
【年齢3区分別人口の推移】



- 生産年齢人口 ⇒ 30 年間で 64.8%から 53.1%に減少
 - 年少人口 ⇒ 30 年間で 22.5%から 8.4%に激減
 - 老年人口 ⇒ 30 年間で 12.5%から 38.2%へと増加
- 1990 年(H02)頃、年少人口と老年人口が逆転
⇒ 2010(H22)年には、**老年人口が年少人口の約 5**

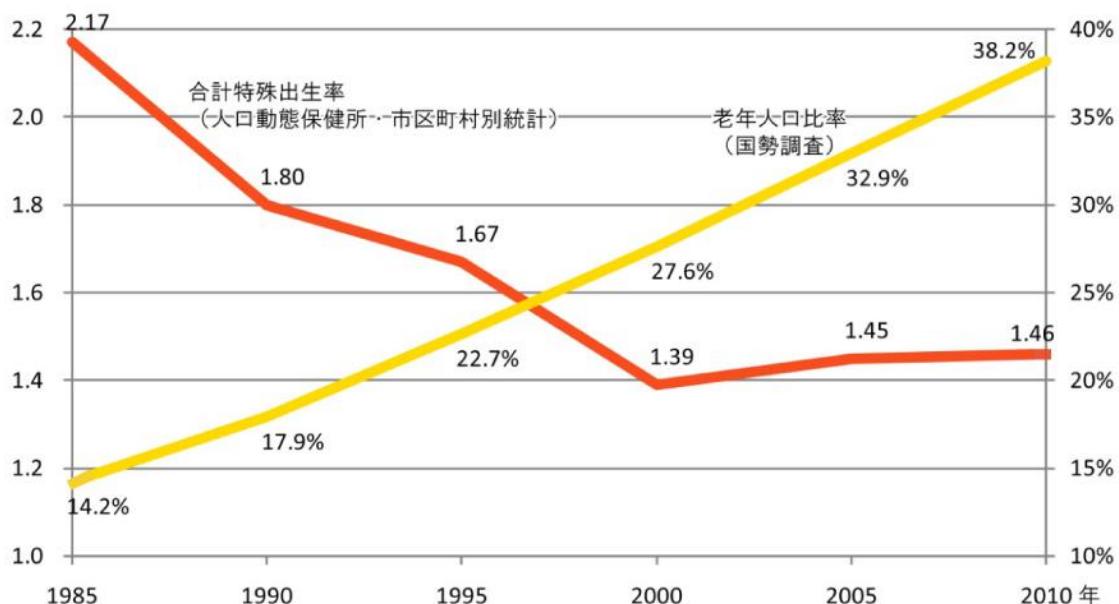
※1 国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研と表記）の推計結果

【年齢3区分別人口および構成比の推移と推計】



年齢不詳を含まない。
2015 年以降は、社人研推計による。

【出生率と老人人口比率の推移】

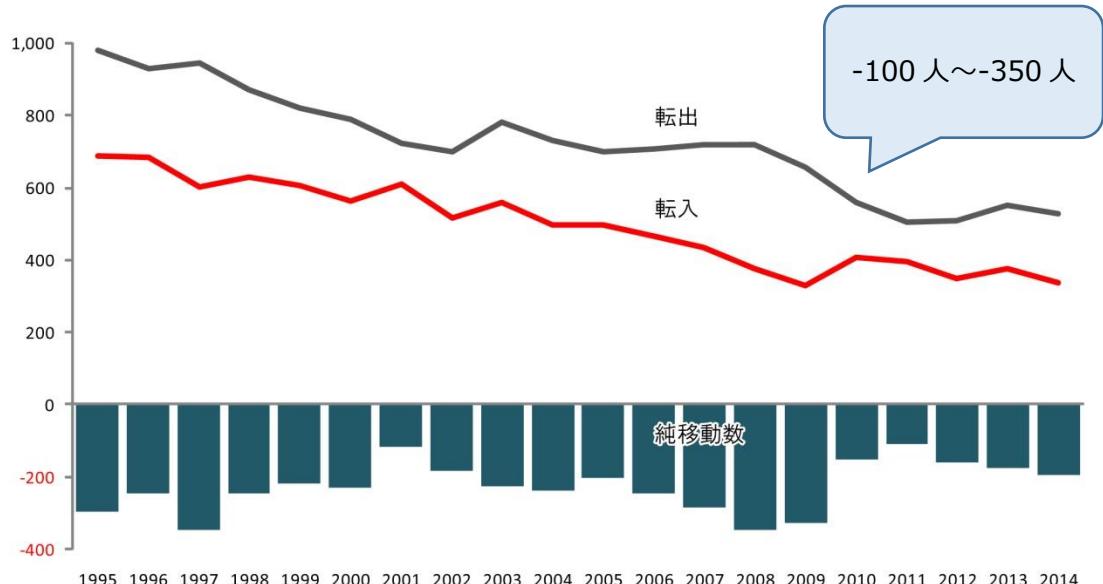
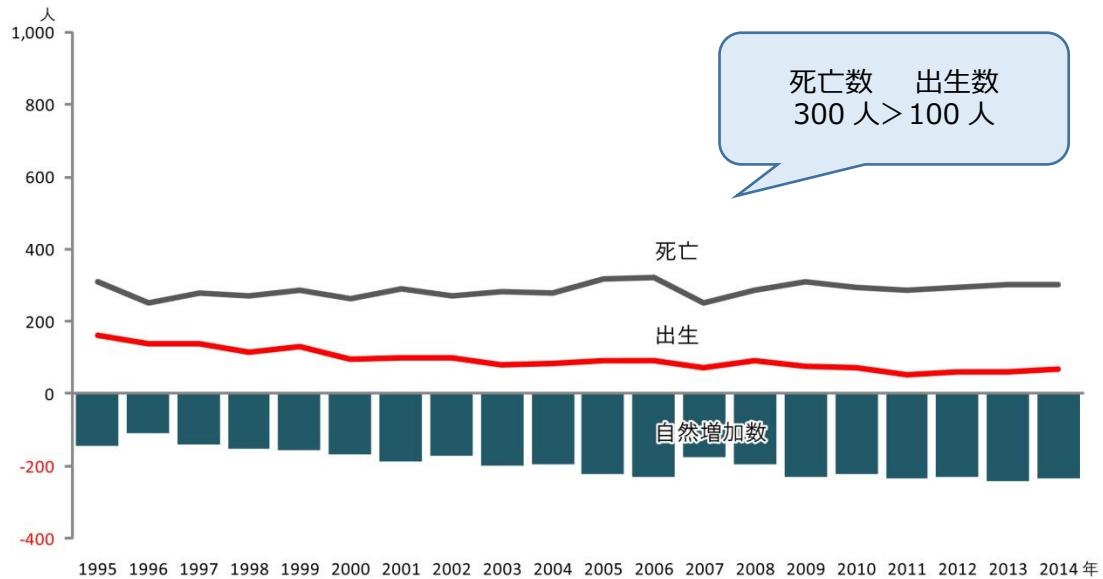


合計特殊出生率は、各年次を中間年とする5年間の合計特殊出生率（ベイズ推定値）である（例：1988～1992年→1990年に表示）。

(3) 出生・死亡、転入・転出の推移

- 1995(H07)年～2014(H26)年の間の傾向では、転入転出による移動数自体は減少傾向にあるものの、その差である純移動数は-100～-350人／年の間をゆれ動いていて、安定化の方向は見えていない。
- 1995(H07)年以降、死亡数は300人／年程度で推移している。一方で出生数は200人弱／年から100人弱／年へと減少しているため、人口の自然減が加速する傾向にある。
- この結果、総人口は減少傾向を維持している。

【人口移動の推移】

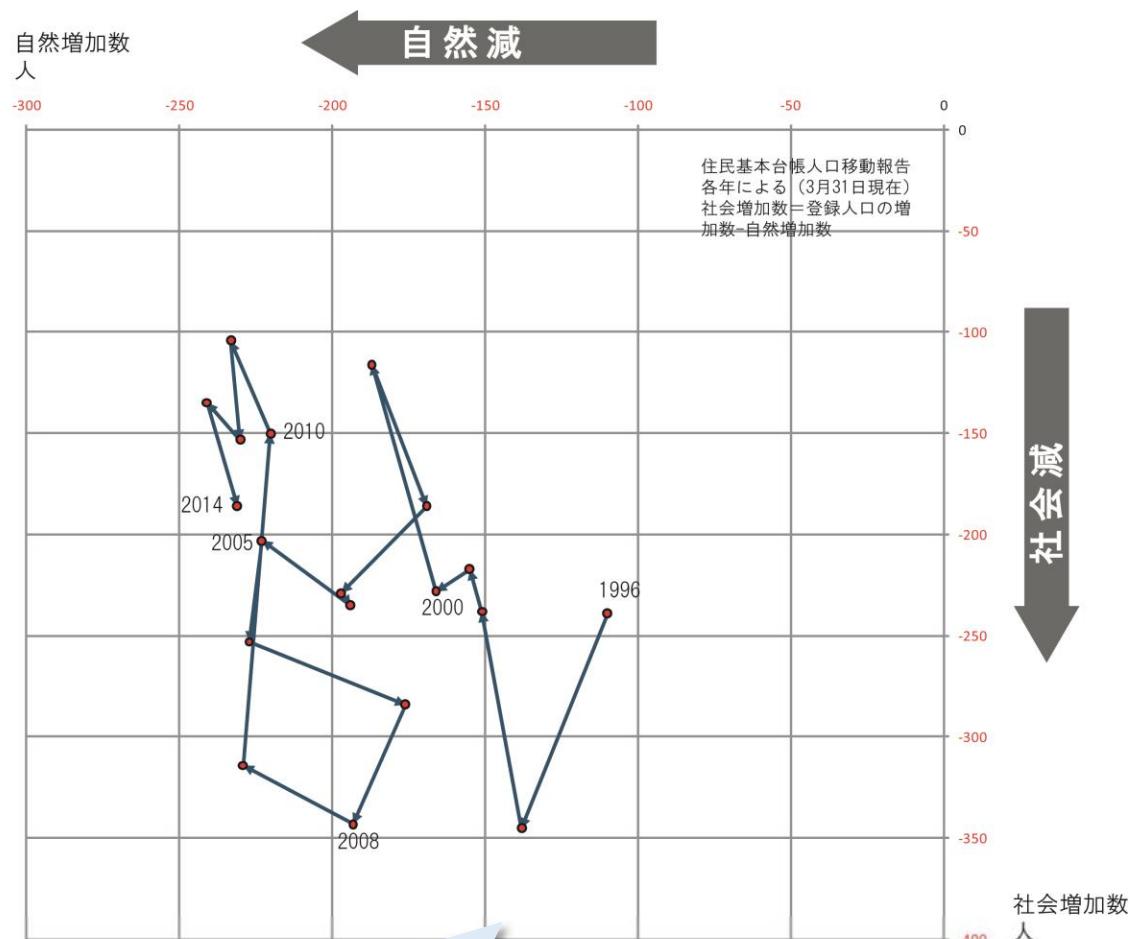


住民基本台帳人口移動報告による

(4) 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

- ここ 20 年ほどを見ると、一貫して自然減かつ社会減で推移している。
- そのなかで、近年は相対的に自然減が増大する傾向にある。1 年間の自然減と社会減の絶対数は、1996(H08)年にそれぞれ 110 人、239 人であったものが、2014(H26)年時点で 231 人、186 人と逆転している。
- この結果、近年の人口減少は、自然減の影響を強く受けたものとなっている。

【自然増加と社会増加の推移】



1996 年の自然減 110 人 ⇒ 2014 年の自然減 231 人

1996 年の社会減 239 人 ⇒ 2014 年の社会減 186 人

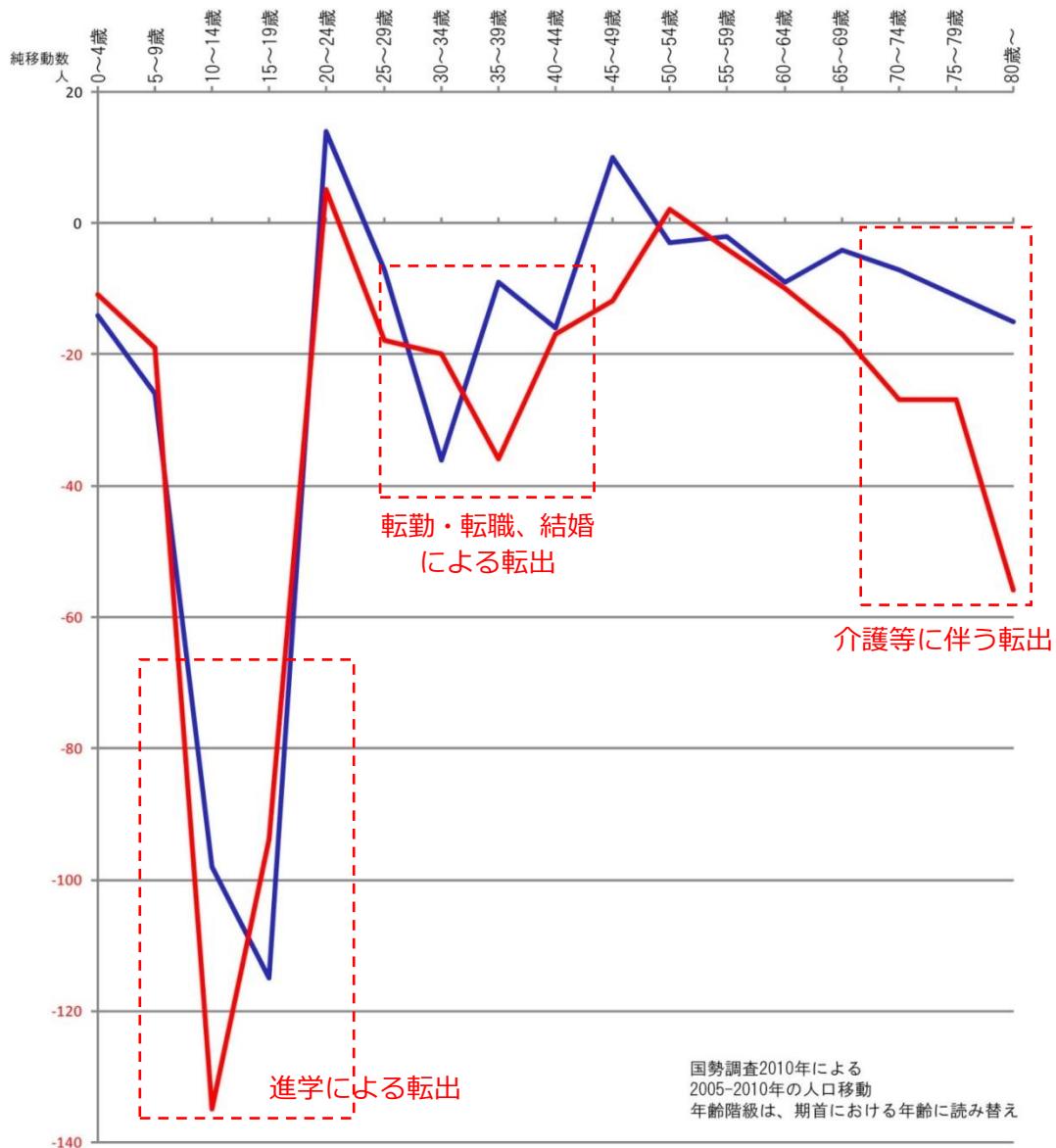
近年の人口減少は自然減の影響を強く受けているといえる

(5) 年齢階級別的人口移動分析

①転入転出の特徴(2005年～2010年)

- ・転出超過の動きは、2005(H17)～2010(H22)年を見ると、10～19歳の男女のその後の5年間の転出超過が442人と際立っており、これは全体の転出超過837人の53%(男62%、女46%)にあたる。進学による転出の影響が大きいと思われる。
- ・次に転出が多いのは、30～44歳の男女、70歳以上の女、80歳以上の男となっている。30～44歳の男女は、転勤・転職、結婚などによる転出の影響、高齢者の男女は介護などに伴う転出の影響と思われる。

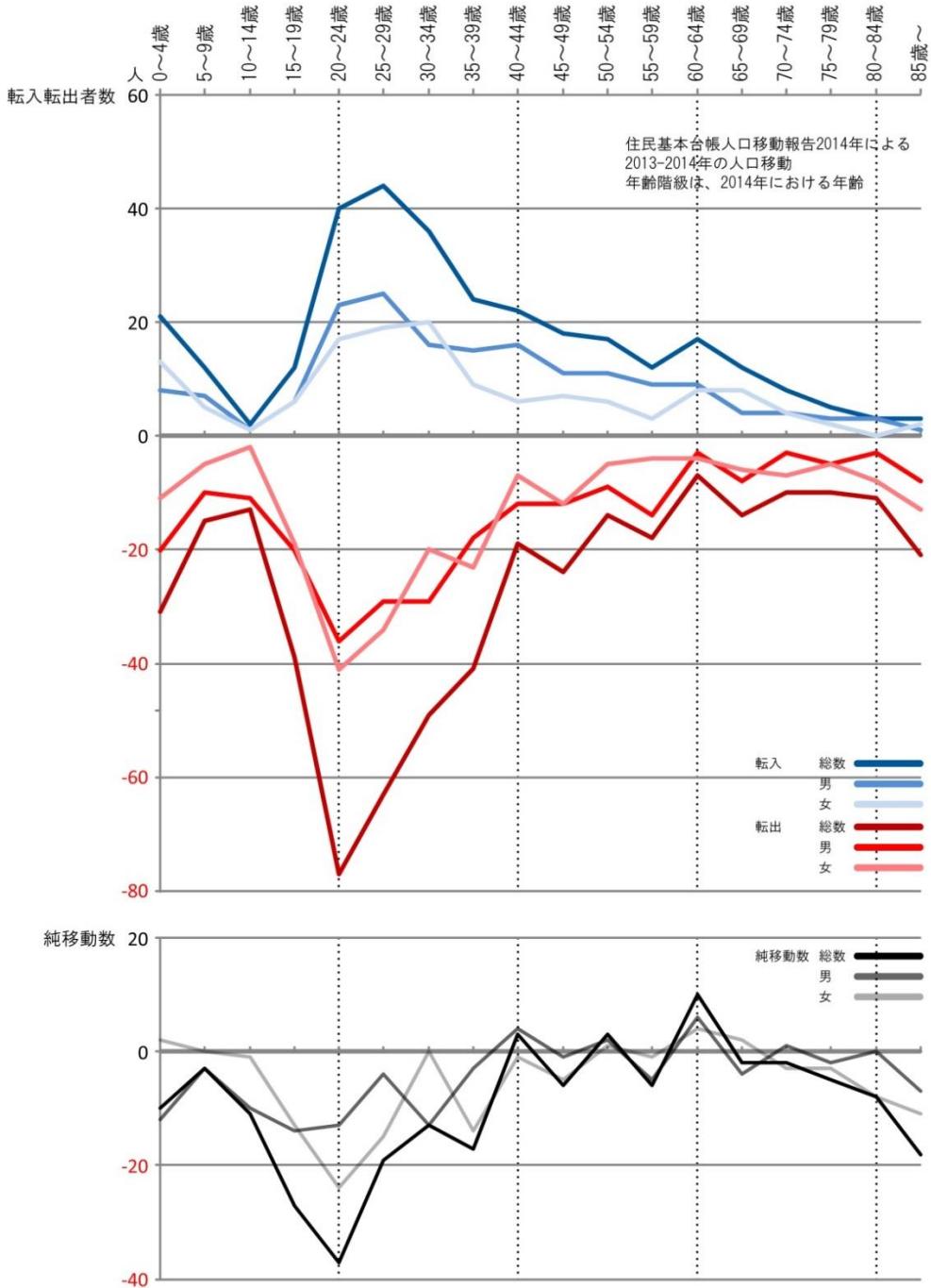
【男女別純移動数 2005年～2010年】



②転入転出の特徴（2013年～2014年）

- ・ 2013(H25)～2014(H26)年の1年間の転入転出の状況を見ると、実際の移動は、純移動数ではそれほど大きくなかった20～34歳あたりの年齢層の出入りが大きい。
- ・ 進学などによる若年層の転出超過は、全体への影響が大きいものの、出入り数そのものは大きくない。むしろ、卒業後の就職あるいは結婚などによる20～29歳の年齢層の出入りの大きい点が注目される。
- ・ リタイアした60歳を超えたところで転入する動き、80歳を超えたところで転出する動きが見える。

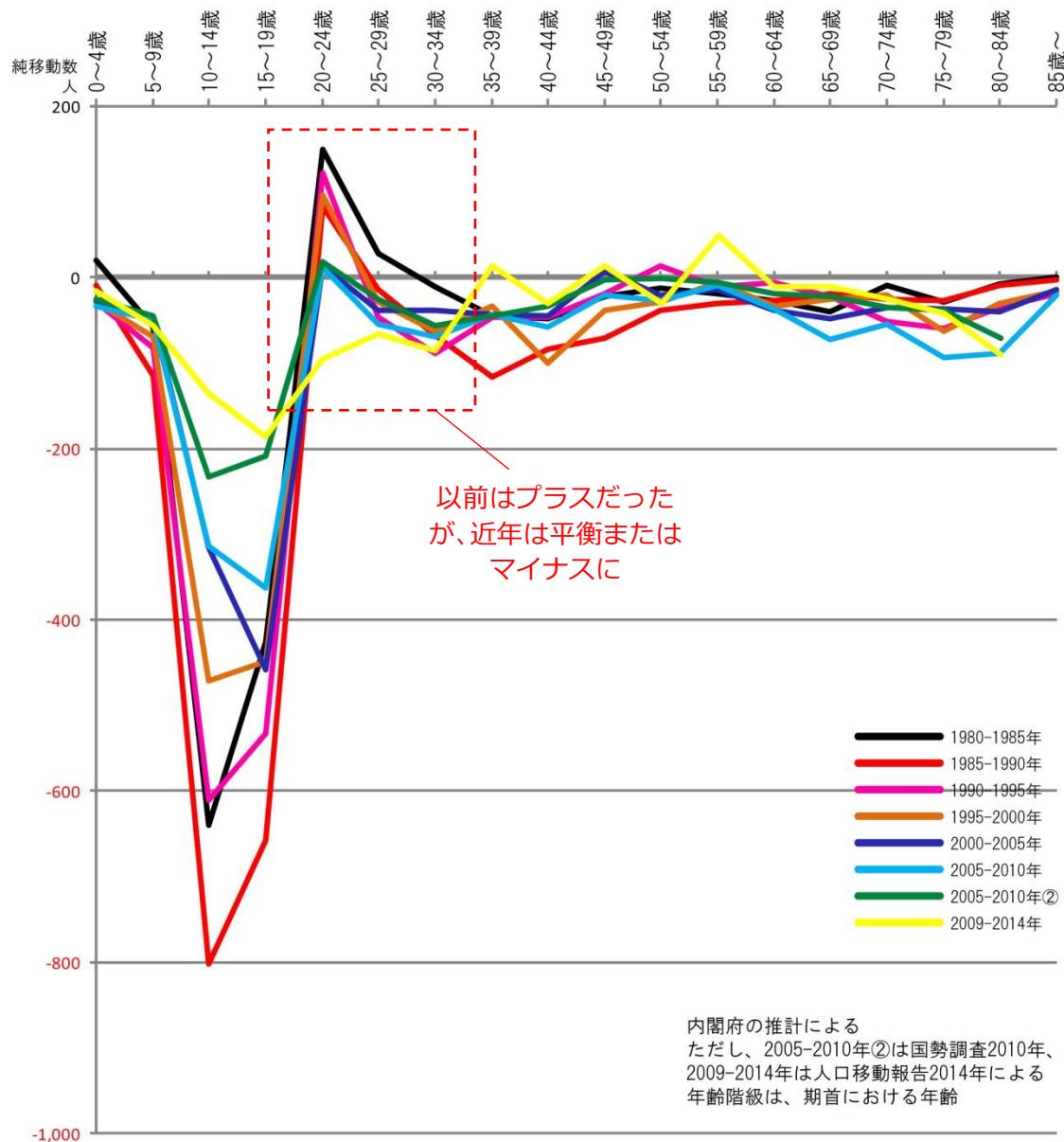
【男女別転入・転出者数 2013年～2014年】



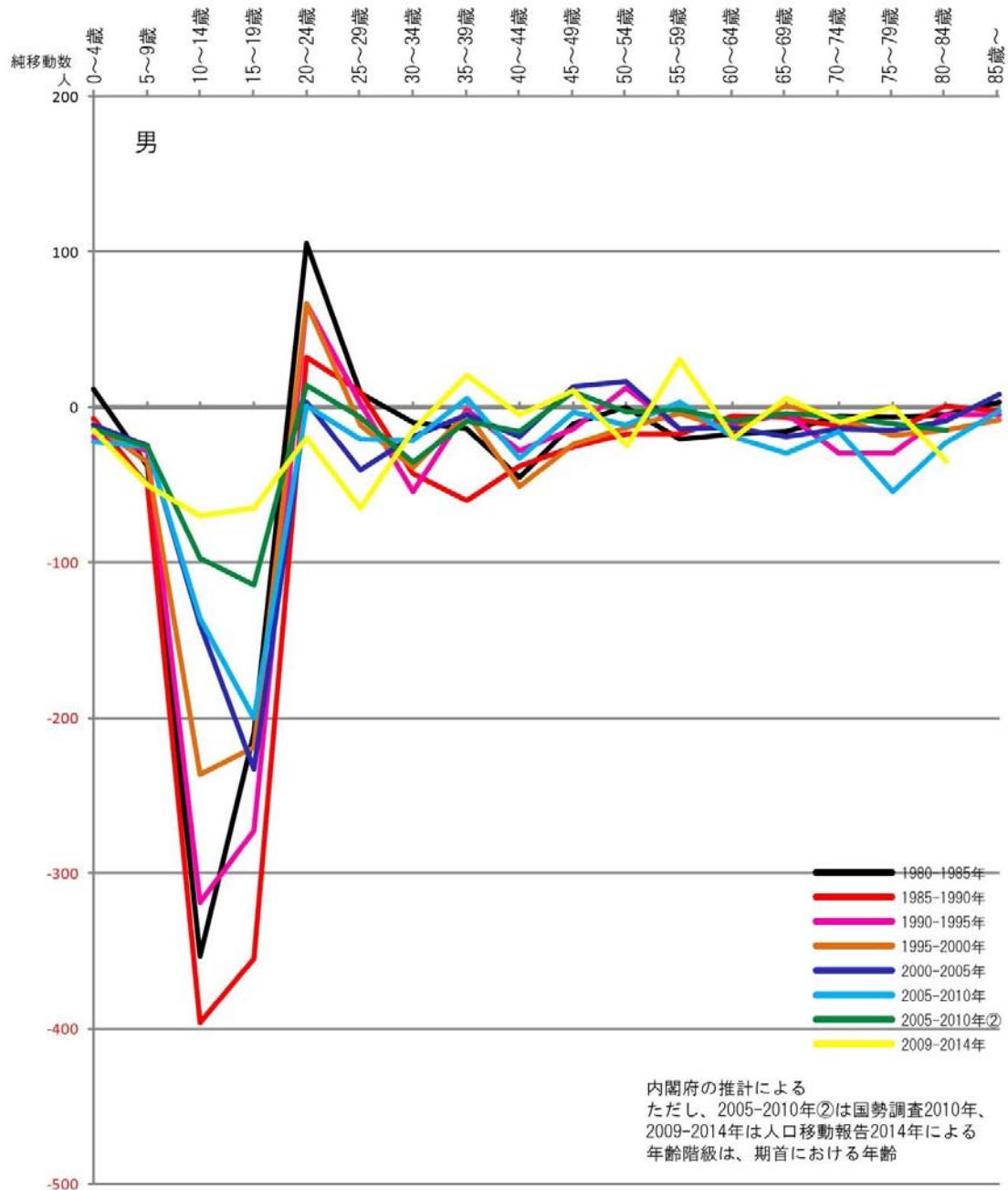
③転入転出の特徴(1980年～2014年の5年単位の純移動数)

- ・20～29歳の年齢層でプラスであった純移動が、近年は平衡またはマイナスに転化してきている。
- ・10～19歳の年齢層の純移動数のマイナスは年々縮小しているように見えるが、母数となる当該年齢層の人口そのものが少なくなっているためであり、実際に、期首の当該年齢層人口に対する純移動数の割合は、1980(S55)年に30.9%（内閣府推計）、2005(H17)年に30.4%（国勢調査）と、ほとんど変化していない。
- ・逆に、年々純移動数そのものが増えているのは60歳以上の高齢者であるが、こちらも母数が増えていることが影響している。

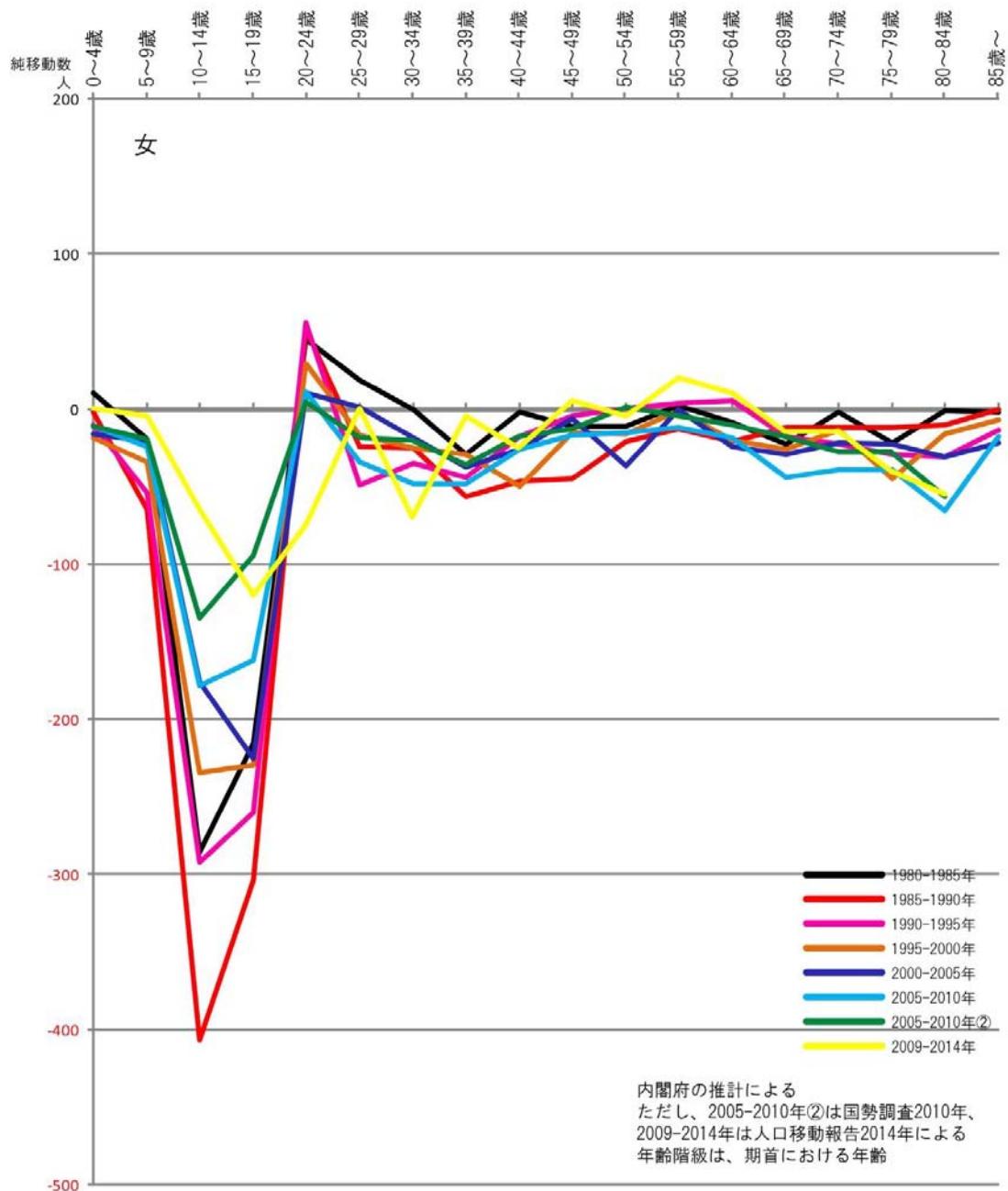
【年齢5歳階級別純移動数の推移】



【年齢5歳階級別順移動数の推移】男



【年齢5歳階級別順移動数の推移】女

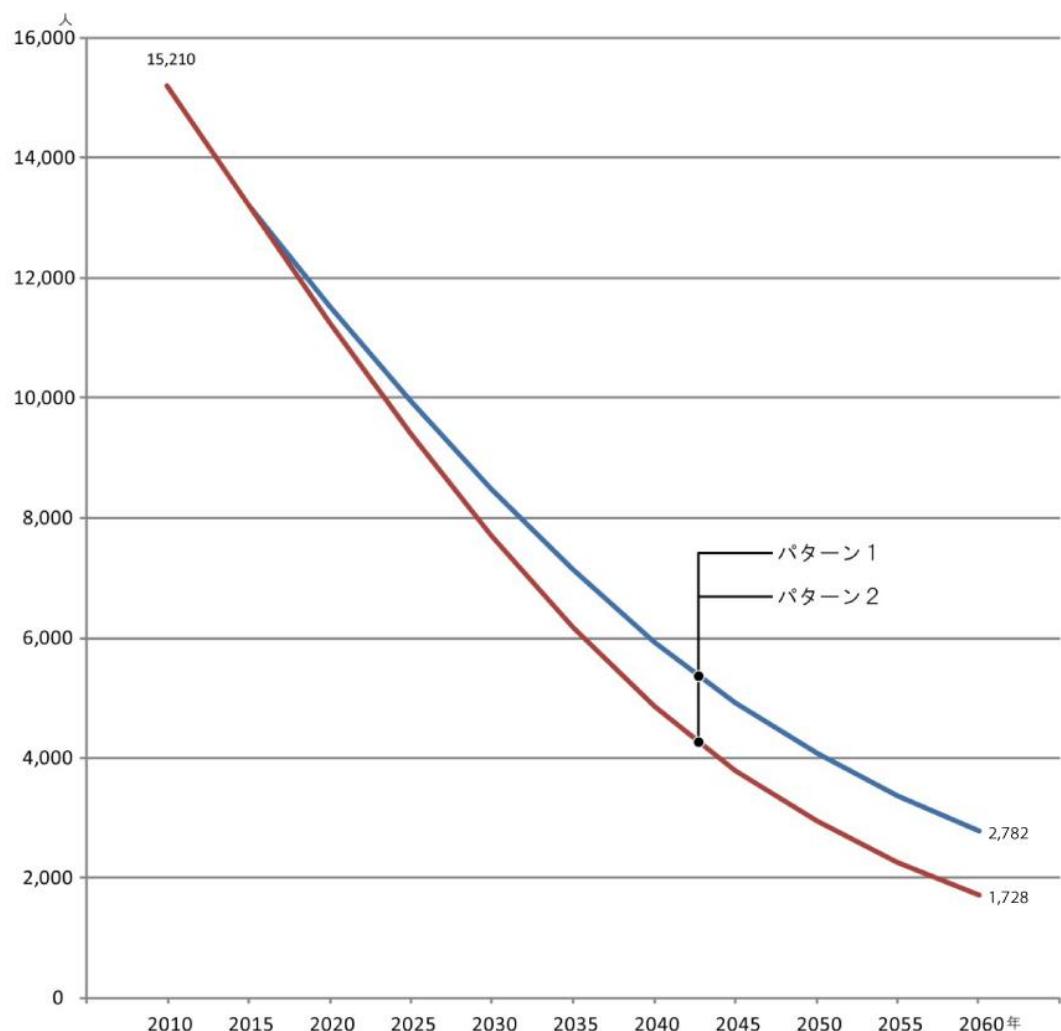


2. 将来人口推計

- ・国立社会保障・人口問題研究所準拠の試算（パターン1）では、2015(H27)年の総人口 13,216 人が、さらに減少して 2060(H72)年にはその 1/5、1980(S55)年の 1/9 にあたる 2,782 人にまで減少すると推計される。
- ・日本創成会議の推計（パターン2）では、2040(H52)年に 4,867 人、2060(H72)年に 1,728 人で、パターン1のそれぞれ 5,936 人、2,782 人と比較して減少が大きい。これは、将来の人口減少に社会減が強く影響しているためである。

（1）パターン1（社人研推計準拠）とパターン2（日本創成会議準拠）の比較

【パターン1とパターン2の推計結果】



各年の総人口の推計結果は、(3) に一括して示す。

推計数値は、それぞれに準拠したものであるが、2010 年年齢不詳人口の按分方法が異なるために、社人研、創成会議の試算とは結果に若干の相違がある。

【パターン1およびパターン2の概要】

(「『地方人口ビジョン』及び『地方版総合戦略』の策定に向けた人口動向分析・将来人口推計について」-H26年10月内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局-から引用)

パターン1：(社人研推計準拠)

- ・ 主に 2005(H17)年から 2010(H22)年の人口の動向を勘案し将来の人口を推計。
- ・ 移動率は、今後、全般的に縮小すると仮定。

<出生に関する仮定>

- ・ 原則として、2010(H22)年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が 2015(H27)年以降 2040(H52)年まで一定として市町村ごとに仮定。

<死亡に関する仮定>

- ・ 原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の 2005(H17)年→2010(H22)年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、上述に加えて、都道府県と市町村の 2000(H12)年→2005(H17)年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
- ・ なお、東日本大震災の影響が大きかった地方公共団体については、その影響を加味した率を設定。

<移動に関する仮定>

- ・ 原則として、2005(H17)年～2010(H22)年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015(H27)年～2020(H32)年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後はその値を 2035(H47)年～2040(H52)年まで一定と仮定。
- ・ なお、東日本大震災の影響が大きかった地方公共団体 2010(H22)年の総人口が 3,000 人未満の市町村などは、別途仮定値を設定。

パターン2：日本創成会議推計準拠

- ・ 社人研推計をベースに、移動に関して異なる仮定を設定。

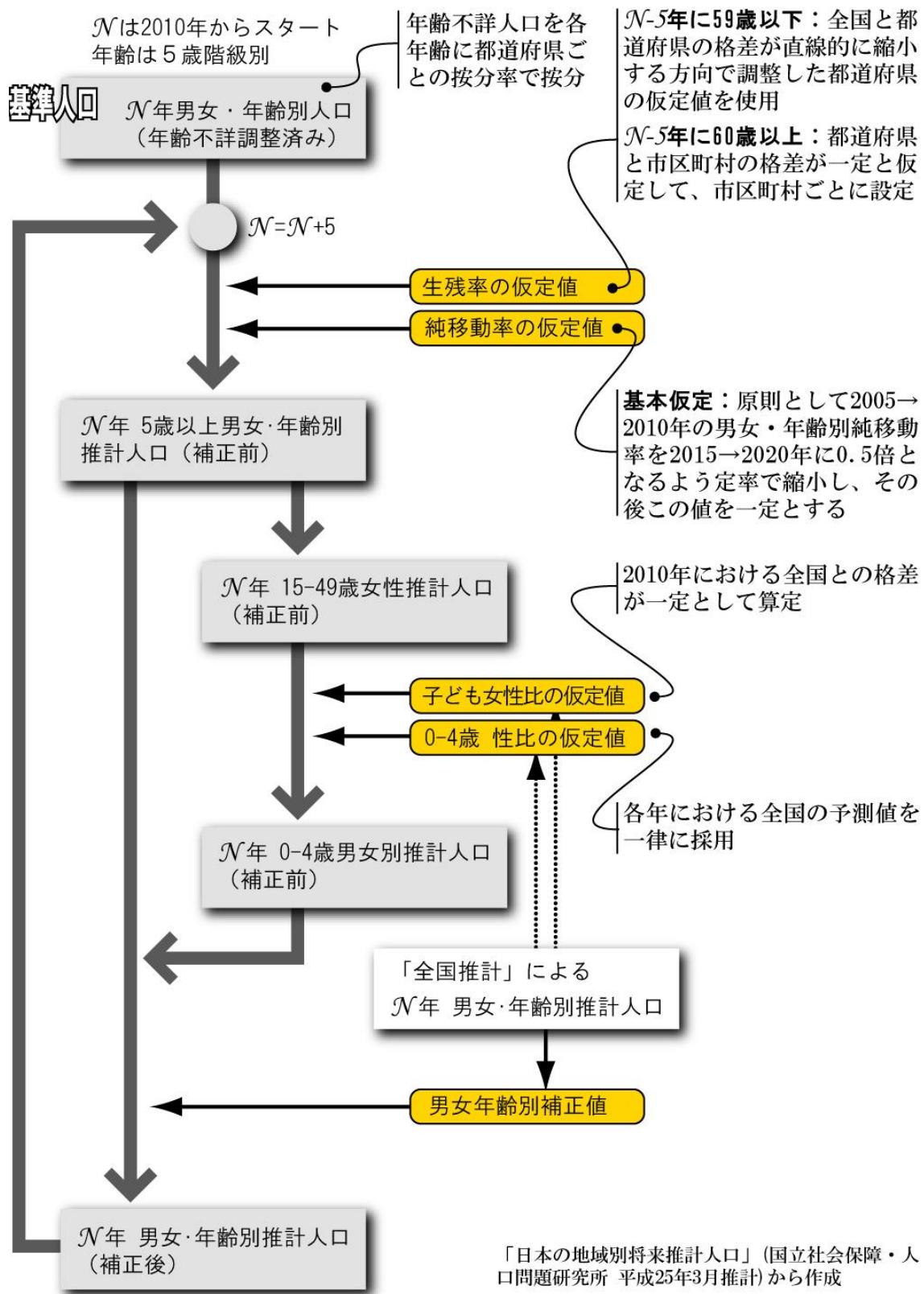
<出生・死亡に関する仮定>

- ・ パターン1と同様。

<移動に関する仮定>

- ・ 全国の移動総数が、社人研 2010(H22)年～2015(H27)年の推計値から縮小せずに、2035(H47)年～2040(H52)年まで概ね同水準で推移すると仮定。（社人研推計に比べて純移動率（の絶対値）が大きな値となる）

【パターン1の推計フローの概要】

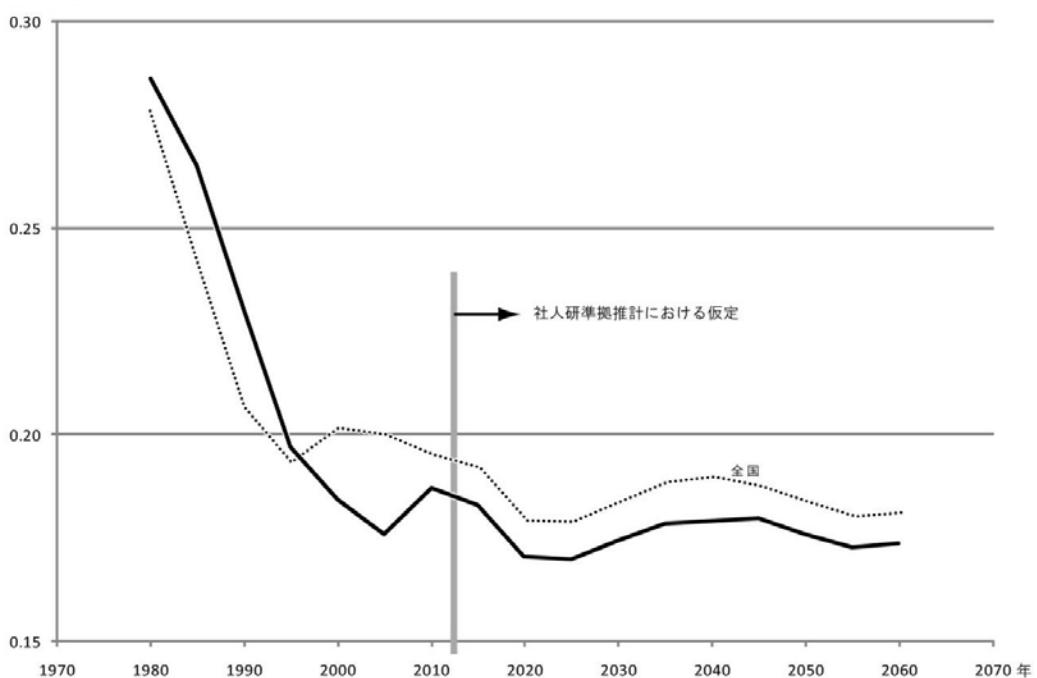


(2) パターン3（室戸市独自推計）

①子ども女性比の検討

- ・室戸市の子ども女性比は、1980(S55)年には 0.286（合計特殊出生率に換算すると約 2.1 の水準）で一定の人口再生産力をもっていたが、その後急速に低下し、2005(H17)年には 0.176（同 1.28）、2010(H22)年には 0.187（同 1.37）と、少子化が進んでいく。これは、2010(H22)年全国値 0.195 よりも若干低い。社人研準拠推計では全国の中位推計と同様に今後はこの低下傾向が終息するとして、室戸市の将来の子ども女性比を全国値の約 0.95 倍およそ 0.17～0.18 程度と想定している。
- ・ただし、1995(H07)年までは室戸市の子ども女性比は全国値を上回って推移してきたのであり、その後低下したとはいえ、2010(H22)年には再び全国値に接近している。パターン3では、子ども女性比が再び持ち直して、全国値を上回らないまでも、全国値と同等で推移するという、希望的な立場をとることとする。

【子ども女性比の推移と想定】



②0～4歳児の性比の検討

- ・社人研準拠推計では、全国の性比の想定を全市区町村に一律に適用し、男／女を 105.40～105.41% としている。
- ・室戸市単独で見た場合の 0～4 歳児の性比は、1980(S55)年から 2010(H22)年まで、91.96%～122.11% と大きく変動しているが、明らかな増減傾向は見えず、また社会的要因で性比が決まるとは考えられないでの、将来の想定としては、全国の性比を用いることとする。

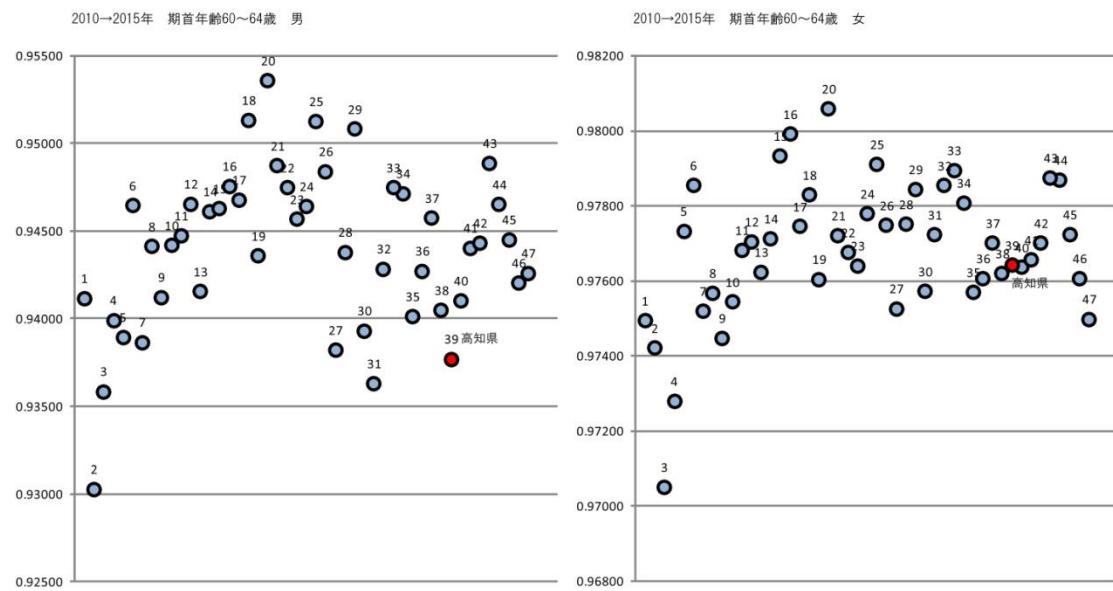
③生存率の検討

- ・男女別年齢5歳階級別の生存率は、社人研推計では次のように仮定している。
 1. 都道府県の全国との格差が今後直線的に縮小する。
 2. 期首年齢が59歳以下の人については、県下一律の生存率を用いる。
 3. 期首年齢が60歳以上の人については、県と市町村の格差が一定として、市町村ごとに仮定した生存率を用いる。
- ・3.で仮定した期首年齢60歳以上の人の生存率の高低が市町村ごとの将来の総人口の推計に影響を与えていることから、2010(H22)年→2015(H27)年の期首年齢60~64歳の男女の生存率がどう仮定されているかについて検討する。以下、数字は男について例示している。
 - ・1.によって仮定している男の生存率は、高知県で0.93769である。これは、青森県(0.93026)、岩手県(0.93584)、鳥取県(0.93628)に次いで、全国で4番目に低い。もっとも高い長野県(0.95355)と比較すると、98.3%の水準である。女についても、高知県は高くない。
 - ・一方室戸市における生存率は0.92016であり、県との格差は98.131%である。3.により、室戸市における当該年齢階層の各期の生存率を、高知県における各期の仮定値にこの格差割合を乗じて設定している。

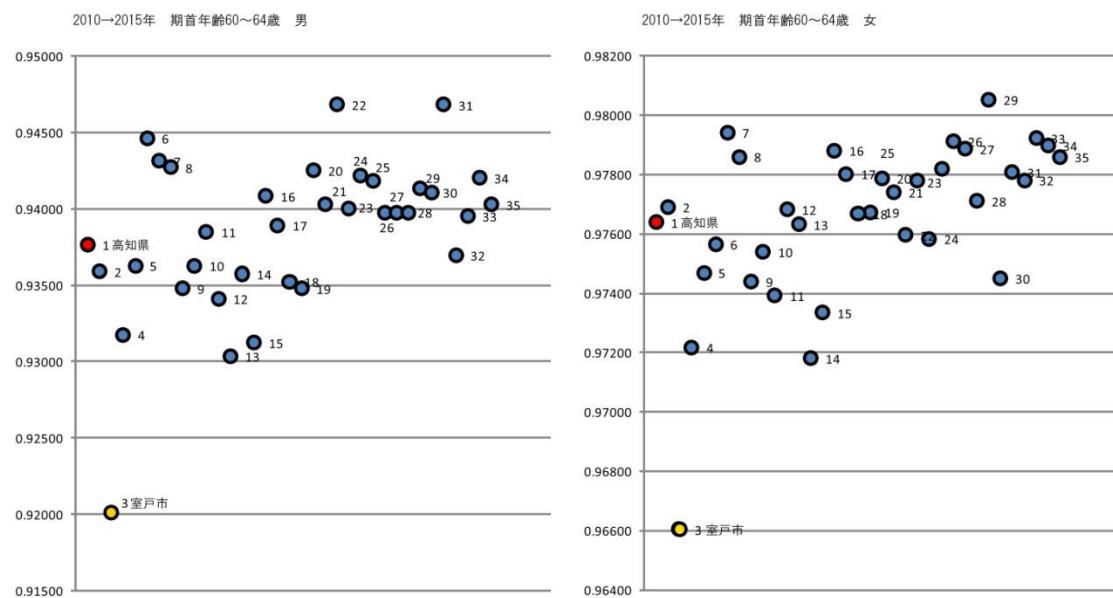
ちなみに、室戸市は県内市町村のうちで生存率がもっとも低く、2番目に低い東洋町(0.93039)とも大きく格差がある。県内でもっとも生存率が高いのは土佐町(0.94686)、次いで津野町(0.94683)となっている。室戸市の生存率は、男女とも県内でもっとも低い。
 - ・グラフは、左から高知県(赤)、市、町、村の順になっている。一般に郡部において高齢者の生存率が高いといわれているが、ここでは、それほど顕著な傾向はみられない。

生存率が低い要因は別途検討すべき課題といえるが、いずれにしても今後とも放置されるべきものではなく、政策努力によって高めていくべきものであろう。
- ・したがって、全国的にも生存率の低い高知県において、さらに室戸市がその中でも最下位の位置を維持すると見込むことは現実的ではない。そこで、ここでは将来は少なくとも高知県と同等の水準で推移すると仮定することにする。具体的には、2010(H22)年→2015(H27)年以降の期間において、期首年齢60歳以上の男女の生存率として、高知県の仮定値を採用することとした。

【都道府県ごとの生存率の仮定】(横軸は県番号)



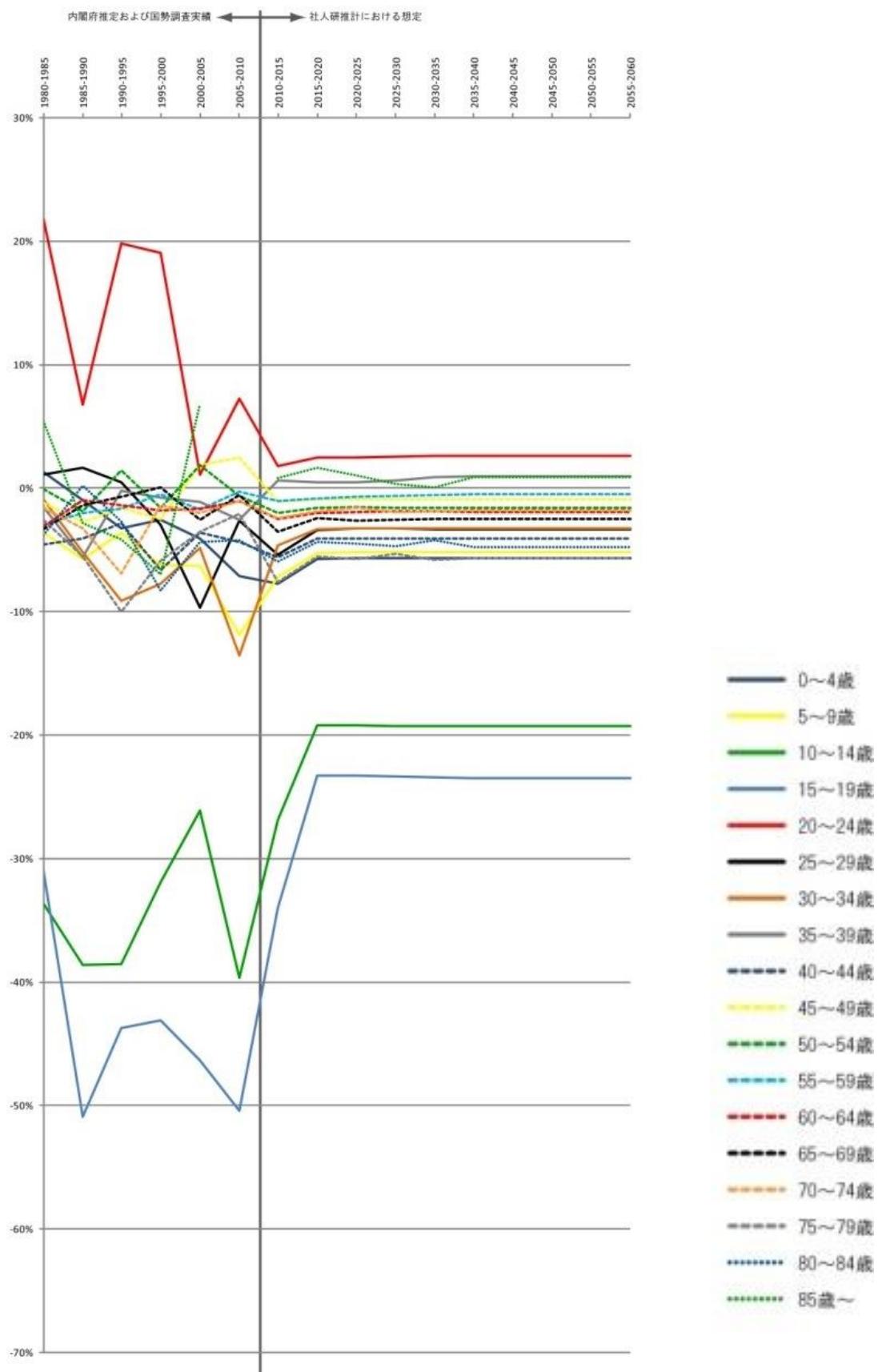
【県内市町村ごとの生存率の仮定】(横軸は自治体番号順の市町村の番号)



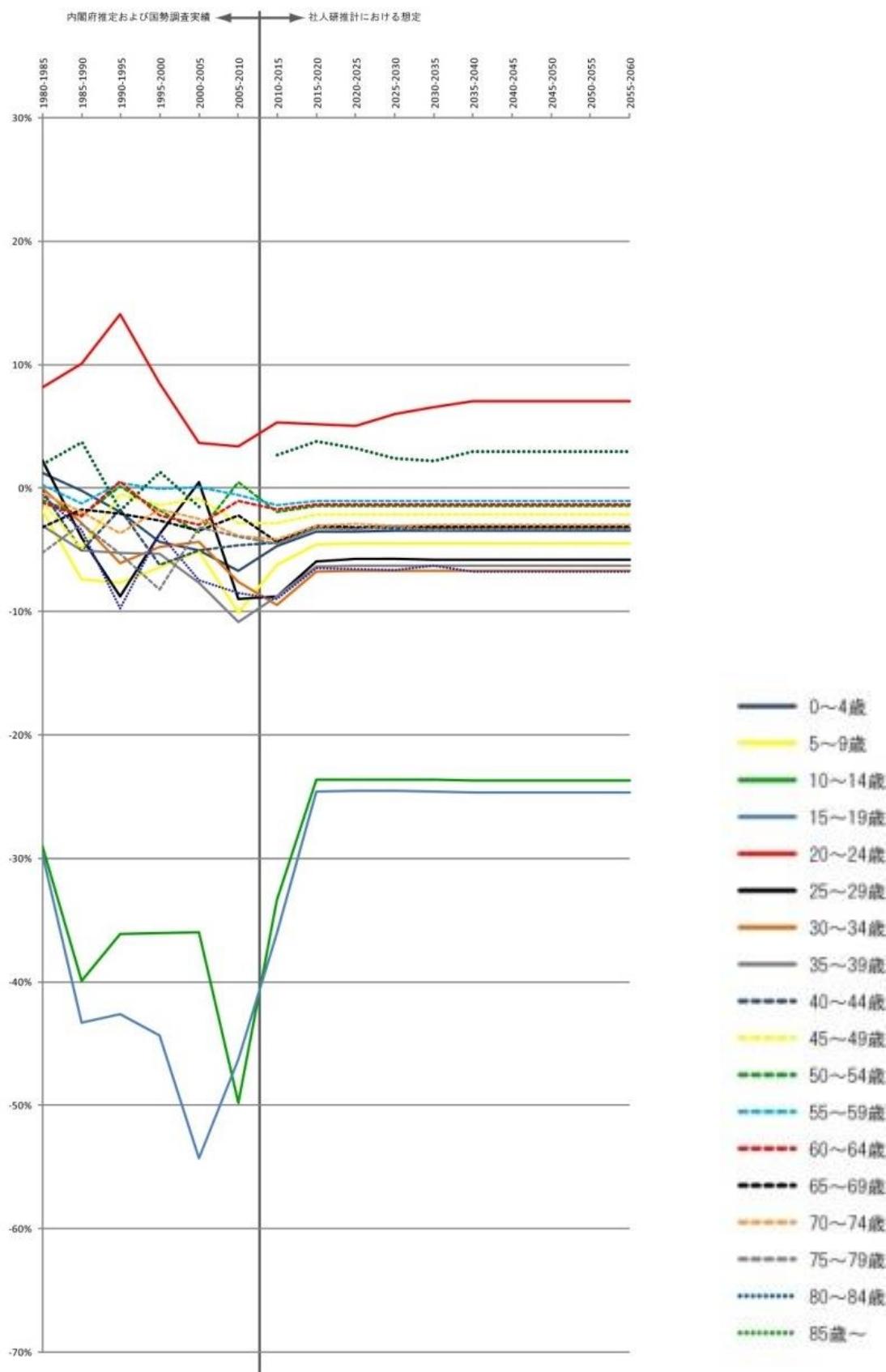
④純移動率の検討

- ・室戸市における年齢階級別の純移動率の推移を見ると、期首年齢 20～24 歳で大きくプラス側に、10～19 歳で大きくマイナス側に振れて推移してきた。20～24 歳では男女とも、大きく増減しながらもプラス幅が縮小する傾向が見え、10～19 歳では同様に男はほぼ一定、女はマイナス幅が拡大する傾向にある。その他の階級においては、絶対値は小さいものの、全体として男女ともややマイナス側にシフトしてきている。
- ・これに対して、社人研の仮定は、将来は 2015(H27)年→2020(H31)年にかけて純移動率の絶対値が現状の 0.5 倍に縮小し、その後一定という原則で算定されている。この結果男女とも、他の階級では現状をほぼ固定したと同等の見方となっているものの、10～19 歳の階級ではややドラスティックな変化を想定した仮定となっている。
- ・そこで、パターン 3 では、より現実的な想定として **10～19 歳の階級では 2025→2030 年にむけて 20 年かけて純移動率が縮小していくもの**とし、他の階級では社人研の仮定のままとした。

【純移動率の推移とパターン1における想定】男性



【純移動率の推移とパターン1における想定】女性



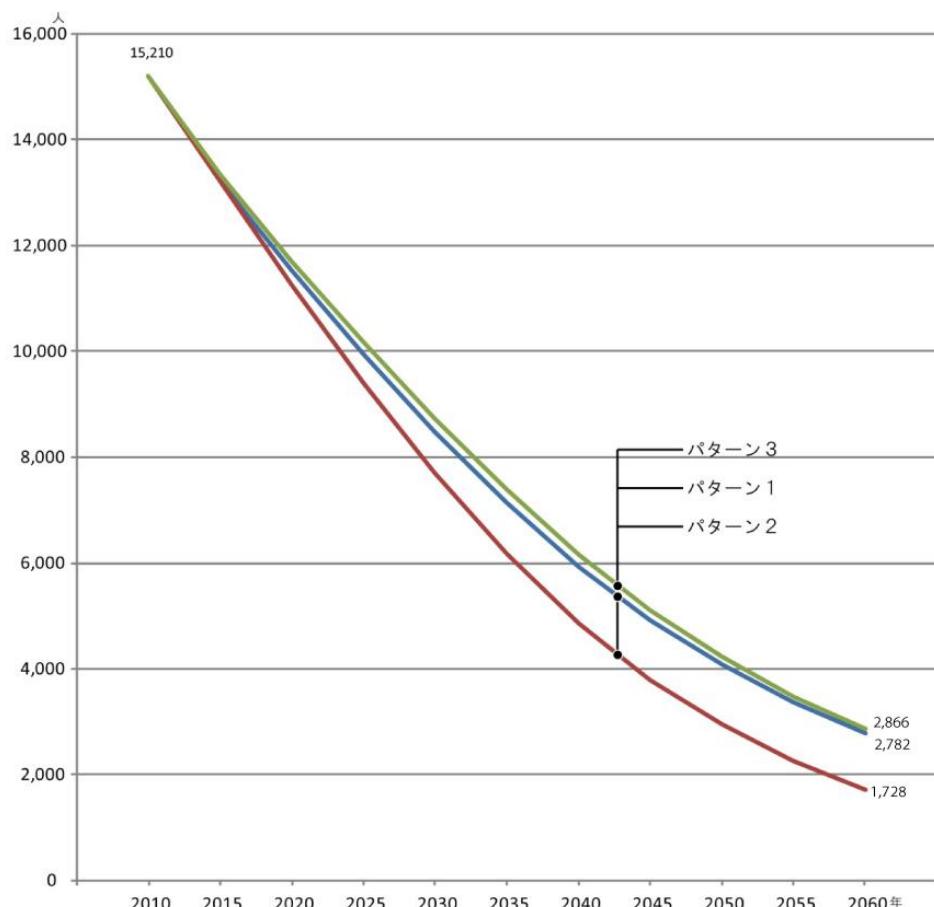
⑤パターン3の推計結果

・パターン3では、パターン1における仮定のうち、子ども女性比をやや高めに、純移動率については期首10～19歳の絶対値の低減をゆるやかに設定したのであるが、その結果、2040(H52)年の人口は6,166人、2060(H72)年の人口は2,866人と、パターン1とほぼ同等の結果をえた。50年間で人口規模が1/5以下となる状況は変わらない。このことは、出生率を多少高くしてあまり効果は見込めず、25歳以上の転出超過傾向が続くかぎり、きわめて深刻な人口減少がおこることを示している。

【パターン3における仮定】

子ども女性比	全国の仮定値を用いる
0～4歳児の性比	全国の仮定値を用いる(=パターン1)
期首59歳以下の生存率	高知県の仮定値を用いる(=パターン1)
期首60歳以上の生存率	高知県の仮定値を用いる
期首10～19歳の純移動率	20年かけて2005→2010年の0.5倍に縮小し後一定
他の階級の純移動率	パターン1の仮定値を用いる

【パターン3による推計結果（総人口の推移）】



各年の総人口の推計結果は、(3)に括して示す。

(3) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析

- ・パターン1を基本として、次の3つのシミュレーションを行ってその効果を比較し、出生と移動が将来人口にどの程度の影響をおよぼすかを評価する。

- ・推計結果は、以下のとおりである。

2060(H72)年の推計人口でみると、シミュレーション3が当然もっとも多くなるが、シミュレーション1と2とでは、それぞれ3,245人と5,448人となり、転出超過がなくなることによって、かなりドラスティックな効果の期待できることがわかる。これは、パターン1における人口減少予測のなかで、将来の転出超過による減少が大きな比重を占めているからである。

パターン1との比較でみると、2060(H72)年人口でシミュレーション1では約460人、シミュレーション2では約2,700人の効果がある。シミュレーション3では、相乗効果がでて、およそ4,100人の効果となっている。

- ・シミュレーション1に追加で新たに若年夫婦の転入を促進することにより、2060(H72)年の将来展望人口8,500人を達成するシナリオをシミュレーション4として試算する。

- ・具体的には、30～34歳の男性と25～29歳の女性のペアを、毎年42組、したがって、50年間で2,100組、4,200人の転入が実現すれば、達成することができる。

なお、2010(H22)年の年齢5歳階級別人口における年齢不詳人口は、総人口15,210人にあわせるために、県の按分率を用いず、室戸市の各階級人口に応じて按分追加した。

【シミュレーションの仮定】

シミュレーション1	出生率が上昇した場合	合計特殊出生率が現在の1.46から徐々に回復し、2050年に2.27となってその後その水準を維持するとして試算
シミュレーション2	移動が均衡した場合	出生率はパターン1の仮定のままで、純移動が均衡し、すべての年齢階層で純移動率が0で推移するとして試算
シミュレーション3	両方が実現した場合	出生率が回復し、かつ純移動が均衡するとして試算
シミュレーション4	出生率が上昇し、若年夫婦の転入が促進された場合	シミュレーション1に加えて、30～34歳男性と25～29歳女性のペアが5年間に210組新たに転入するとして試算

【シミュレーション1、3における合計特殊出生率の仮定】

2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
1.460	1.500	1.800	1.840	1.955	2.070	2.170	2.270	2.270	2.270

【推計結果】

単位：人

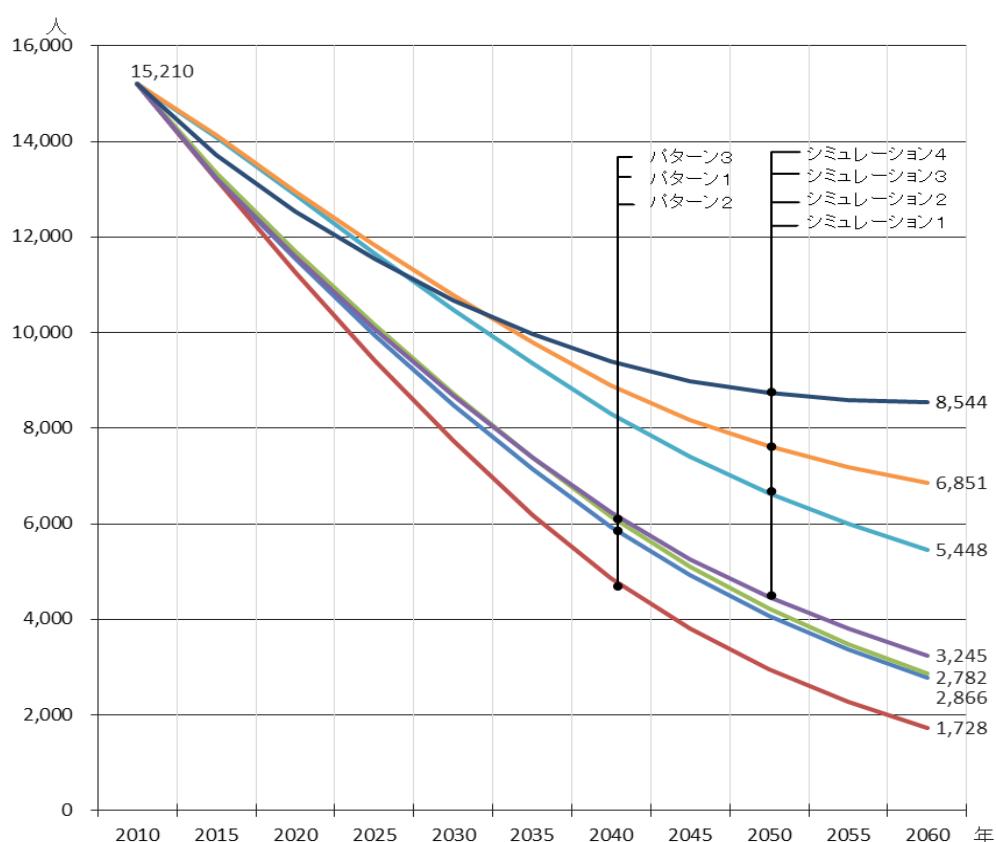
	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン1 (社人研推計)	15,210	13,216	11,538	9,957	8,480	7,133	5,936	4,917	4,075	3,370	2,782
パターン2 (創成会議推計)	15,210	13,216	11,267	9,412	7,705	6,179	4,867	3,806	2,956	2,273	1,728
パターン3 (独自推計)	15,210	13,336	11,712	10,174	8,728	7,385	6,166	5,106	4,224	3,484	2,866
シミュレーション1	15,210	13,247	11,602	10,089	8,669	7,377	6,234	5,263	4,466	3,799	3,245
シミュレーション2	15,210	14,091	12,876	11,660	10,482	9,359	8,312	7,401	6,641	5,998	5,448
シミュレーション3	15,210	14,126	12,957	11,844	10,775	9,785	8,902	8,177	7,614	7,176	6,851

【シミュレーション4の推計結果】

単位：人

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
シミュレーション4	15,210	13,709	12,542	11,553	10,675	9,963	9,395	8,989	8,743	8,597	8,544

【推計結果】

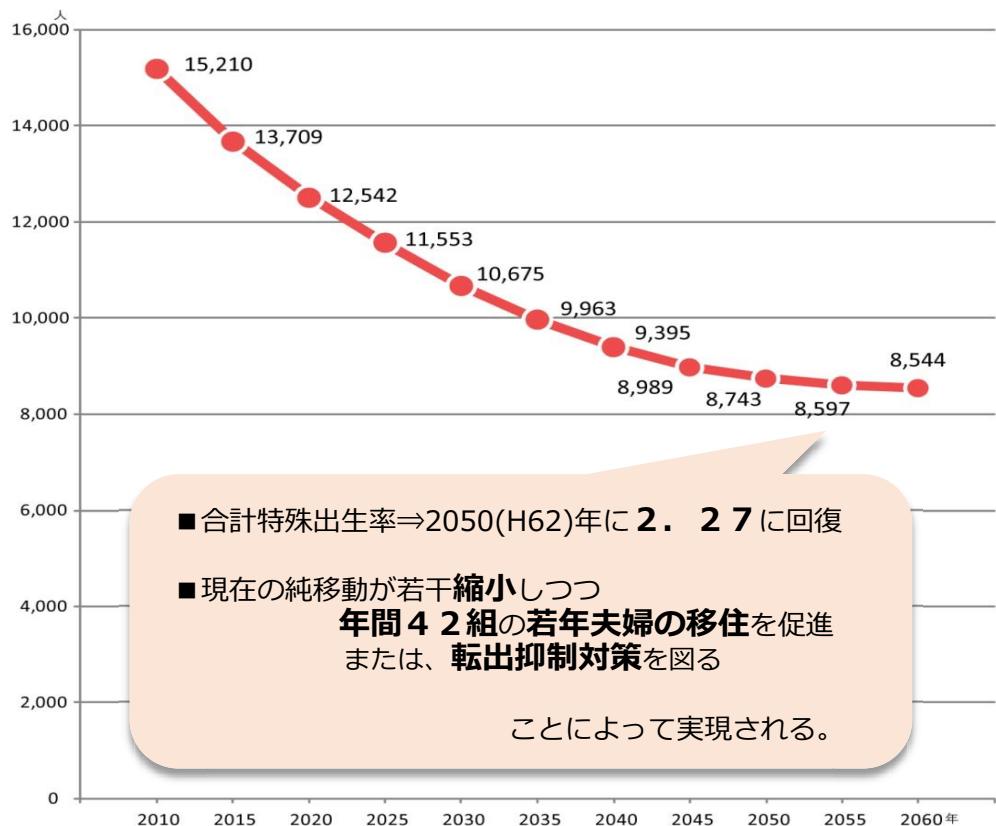


3. 人口の将来展望

- ・室戸市の将来人口を、シミュレーション4を踏まえて 2060(H72)年に約 8,500 人と展望する。
- ・これは、合計特殊出生率を 2050(H62)年に 2.27 程度にまで回復させることにあわせ、現在の純移動が若干縮小しつつ、若年夫婦の移住を促進（年間 42 組）、または、転出抑制対策を図ることによって達成される。各年の総人口、年齢3区分別人口、目標とする合計特殊出生率は、下表のとおりである。

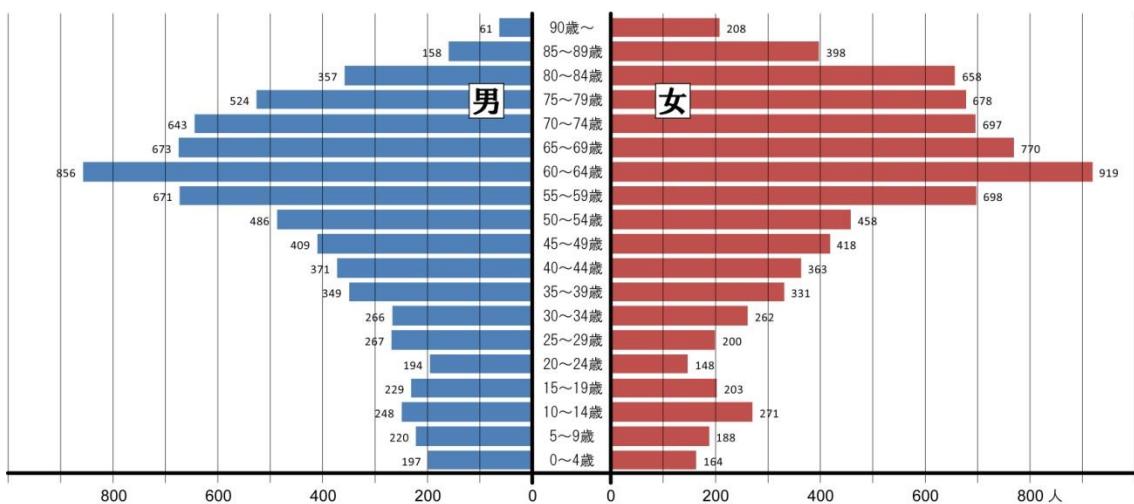
【人口の将来展望】

	2010年 平成22年	2025年 平成37年	2035年 平成47年	2045年 平成57年	2060年 平成72年
総人口	15,210	11,553	9,963	8,989	8,544
0～14歳	1,288	1,014	1,199	1,369	1,449
15～64歳	8,098	5,410	4,936	4,956	4,932
65歳～	5,823	5,129	3,828	2,664	2,163
合計特殊出生率	1.46	1.80	1.96	2.17	2.27

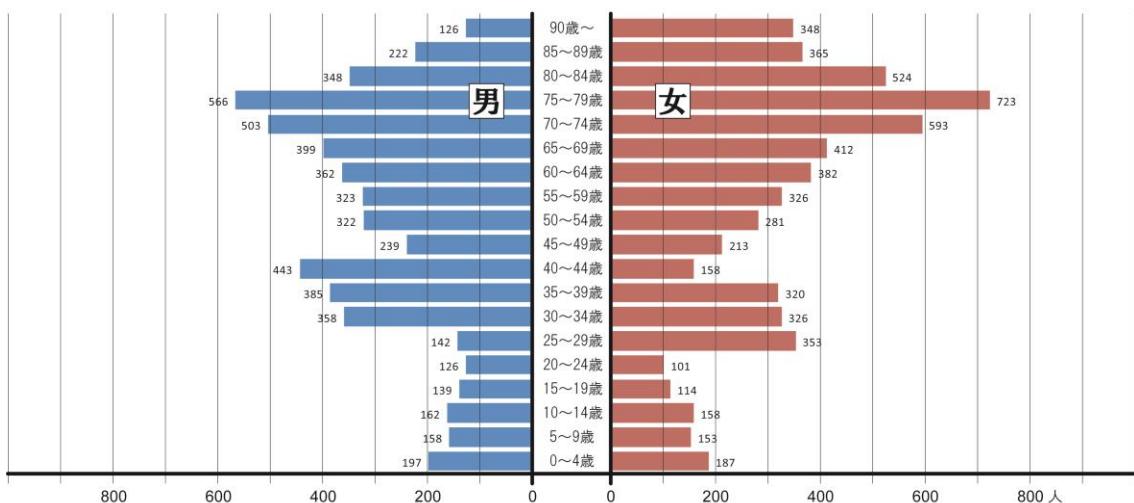


【人口の将来展望における人口ピラミッドの推移】

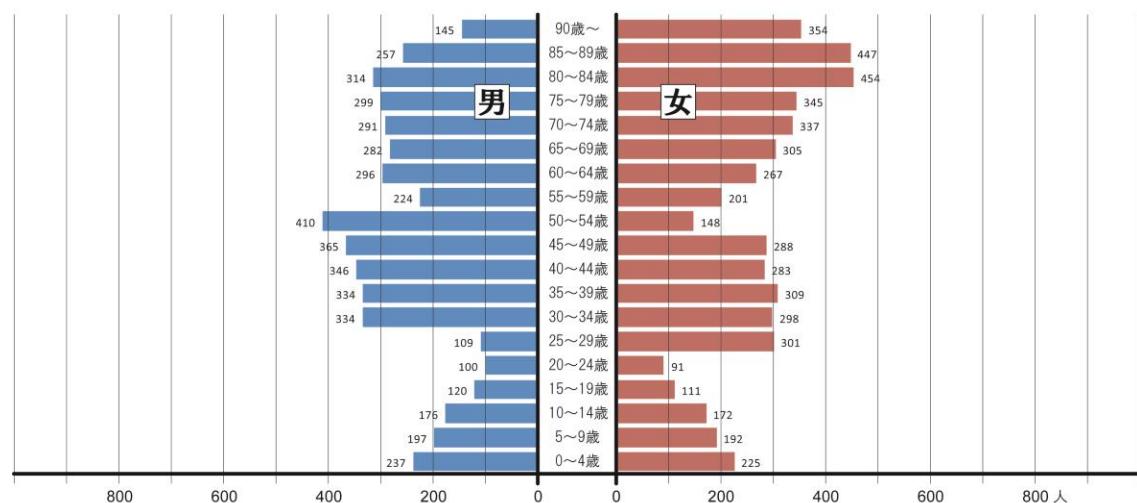
2010年



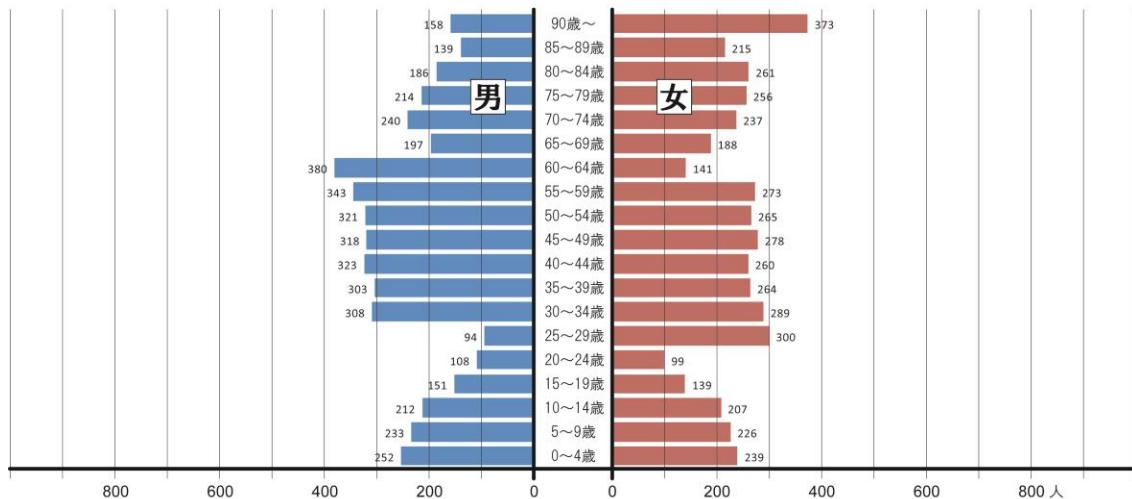
2025年



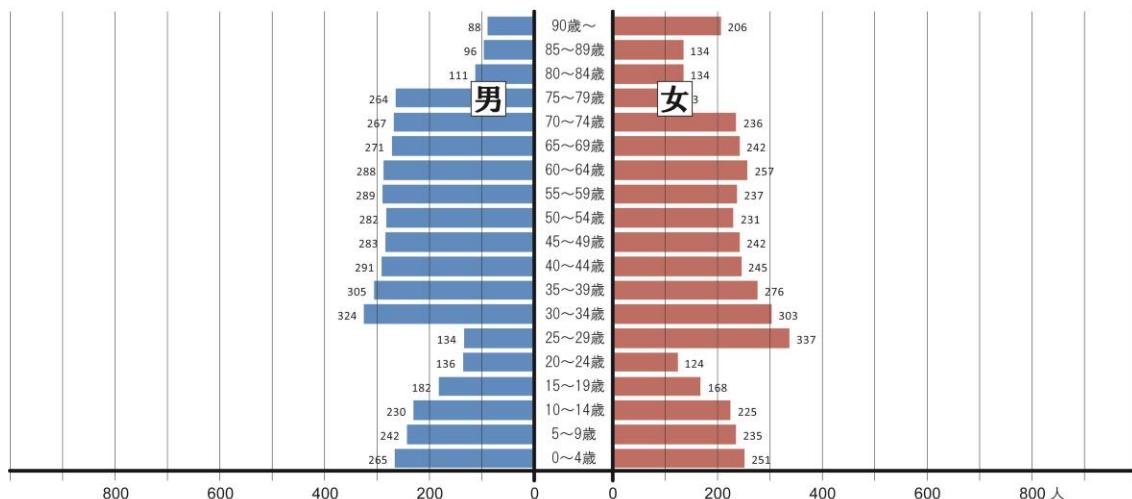
2035年



2045年



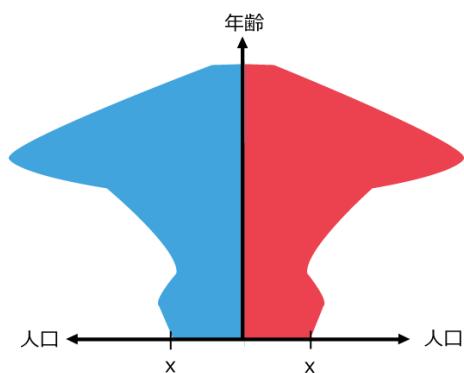
2060年



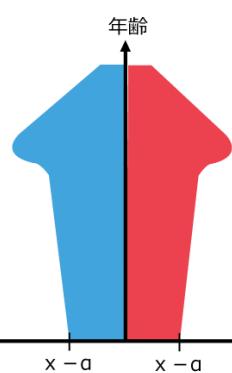
現状のまま何も対策を講じなかった場合、年少人口になるにつれて人口が少なく、高齢人口が多いピラミッドを描く。(下図中)

人口が安定すると、年少人口と生産年齢人口は一定の人口を保ち、高齢になるにつれて減少する「えんぴつ型」のピラミッドを描く。(下図右)

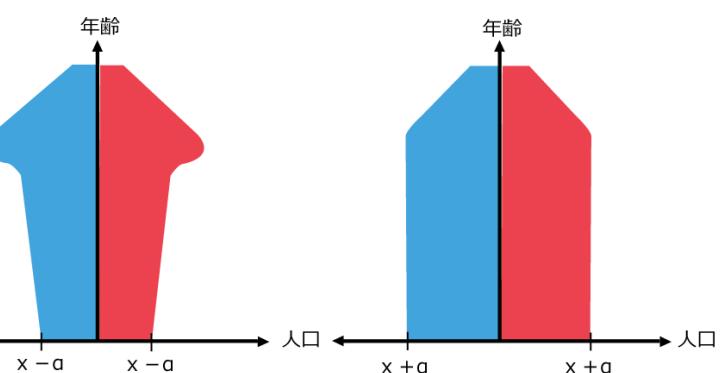
【現在】



【対策を講じなかった場合】



【人口が安定に向かった場合】



第2章

室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(平成 27 年～平成 31 年)

1. 総合戦略の位置づけと計画期間

(1) 総合戦略の位置づけ

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、平成 72 年を視野に入れた中期展望（長期ビジョン）で、「人口減少問題の克服」と「成長力の確保」の 2 つを掲げている。「人口減少問題の克服」と「成長力の確保」は、車の両輪である。そのため、基本目標としては、「まち」「ひと」「しごと」の好循環をつくり、この好循環を支える、まちの活性化を図るために、①地方における安定した雇用の創出、②地方への新しい人の流れ、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する、の 4 つを基本目標としている。

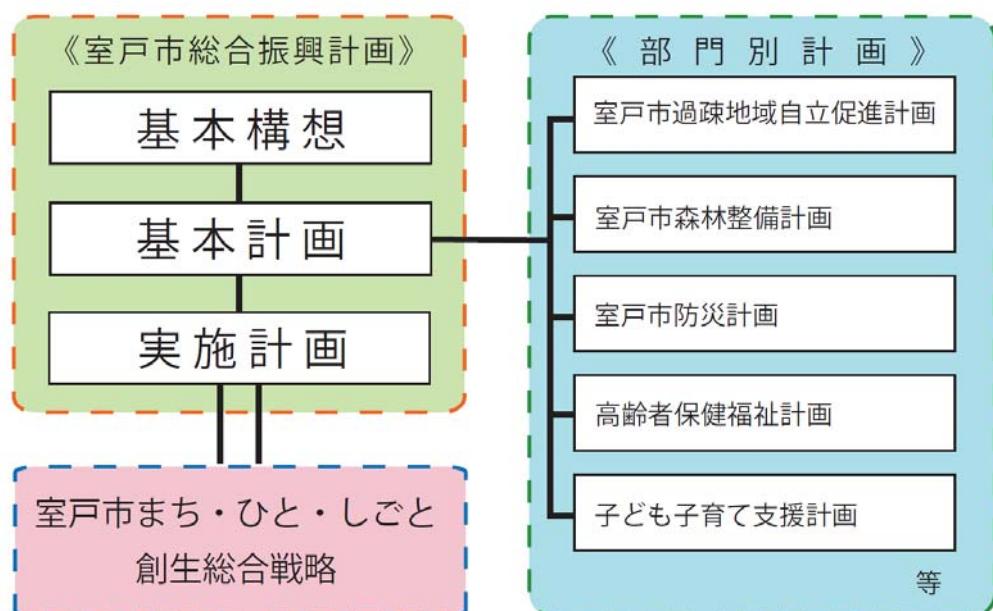
全国の都道府県、市町村では、平成 27 年度に「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定し、その「地方版総合戦略」にのっとり、その手始めとして、平成 27 年から平成 31 年の 5 カ年で施策を実施することとなっている。

本年度、室戸市では「室戸市総合振興計画」の策定が同時進行で進んでおり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「室戸市総合振興計画」のうち、重要かつ優先的に実施する事業として位置づけ、室戸市の地域活性化を図る。

(2) 総合戦略の計画期間

総合戦略の計画期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とする。

■室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ



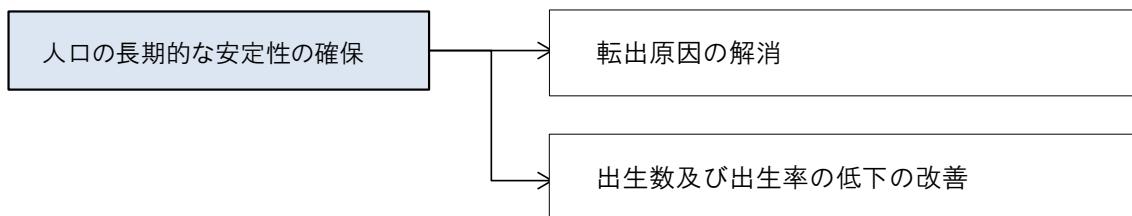
2. 総合戦略の効果的な推進

(1) 総合戦略策定の視点

①人口の長期的な安定性の確保

室戸市の人口ビジョンでは、人口減少の要因として、転出超過による社会減が大きな比重を占めていることが指摘されている。したがって、転出超過を改善ができることができれば、大きな人口減少の抑制効果がある。そのためには、転出原因を解消する施策が求められる。

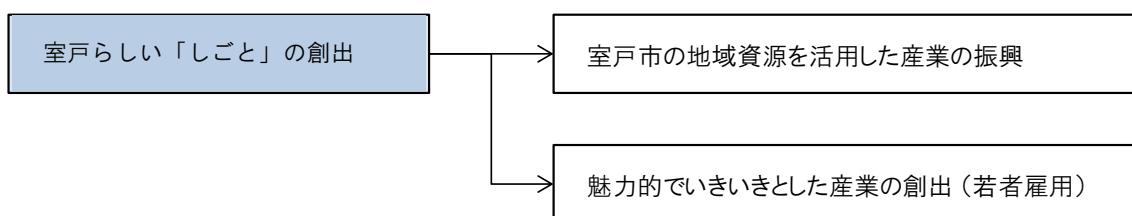
また、人口の安定性を確保するためには、出生数及び出生率の低下を改善する必要がある。そこで、総合戦略の策定においては、若年女性の人口流出の抑制及び出生率の上昇を図る施策も大変に重要である。



②室戸の強みを生かした室戸らしい「しごと」の創出

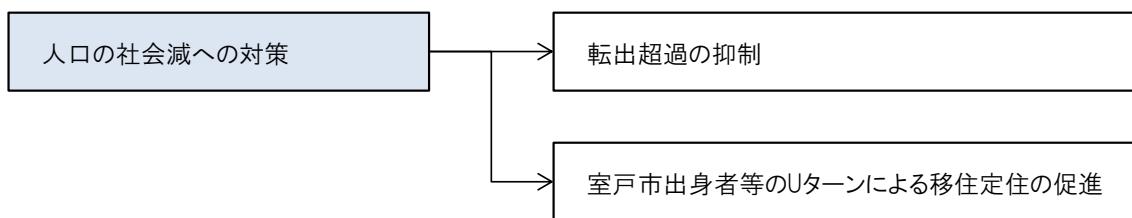
転出超過の大きな原因として、室戸市内での雇用の場の不足があげられる。市民アンケートにおいても、今後の取り組みとして、安定した雇用の創出を重視する意見が約70%を占めた。しかし、室戸高校でのアンケートでは、室戸市での就職を希望するが、室戸市に希望する就職先がないため、それを理由に転出を考える意見が多い。

現在、生きがいを感じる「しごと」に就く若い世代も多く、室戸高校でのアンケートでも、就職先の選考理由には「興味のある仕事」が上位を占めた。そこで、総合戦略の策定においては、いきいきとした室戸らしい「しごと」を創出し、そこに、農林水産業、室戸海洋深層水、室戸世界ジオパーク等を活用することが重要となる。



③人口の社会減への対策

人口の社会減を抑制するためには、まずは、転出超過を抑える必要があり、その施策が重要となる。また、転入の増加も重要であるが、都市圏の若者等を一度に大勢移住させることは難しいため、室戸市出身者及び地縁者等をUターンとして迎え入れる施策も必要である。市民アンケートでは、室戸市で住みたい理由に「生まれ育ったまちだから」という回答が上位にランクしている。そこで、総合戦略の策定においては、上記の視点を取り入れた移住施策を組み立てていく必要がある。

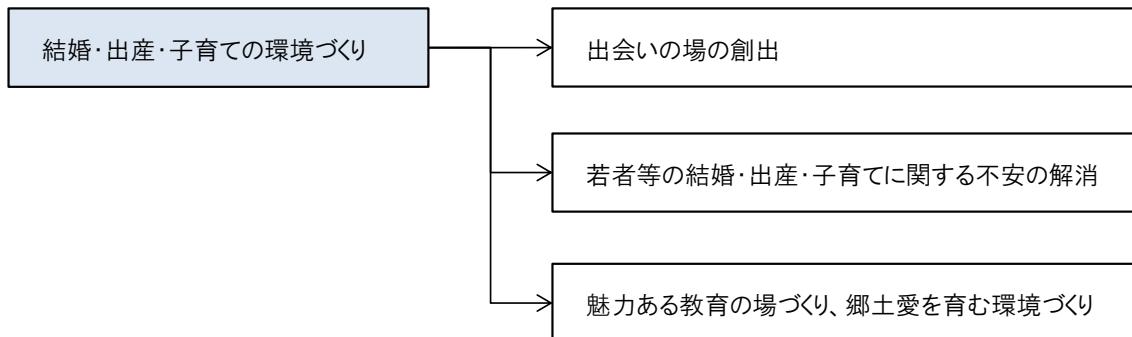


④若い世代の結婚・出産・子育ての環境づくり

近年、結婚スタイルが多様化してきている。また、市民アンケートでは、子育て世代の女性の就労支援等を望む意見が多くかった。

出生数・出生率を確保するためには、若い世代が、希望どおり結婚し、安心して出産・子育てができ、女性が活躍できる環境を創り出すことが重要となる。また、結婚に向けて、婚活等の出会いの場の創出も必要であるため、総合戦略においては、若い世代が、結婚・出産・子育ての不安を解消する施策を進める必要がある。

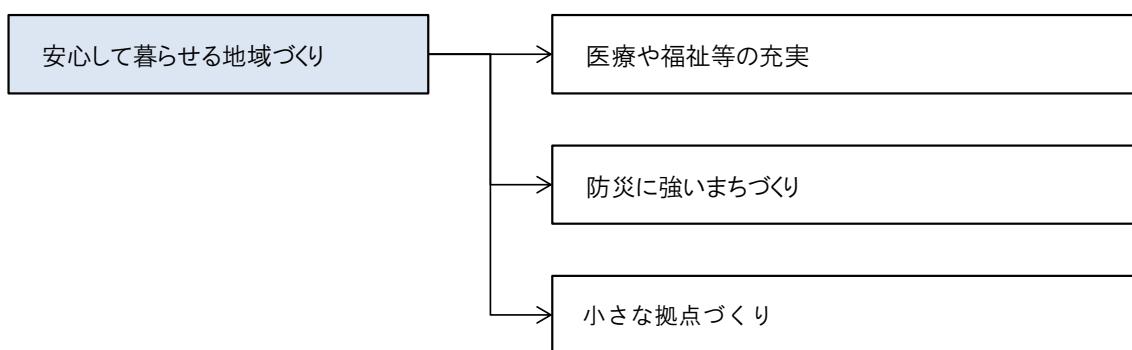
子育てに関しては、現在、学力の向上や情操教育等への関心が高い。室戸市には、高等学校があり、小・中学校や家庭教育等と連携することで、魅力ある教育の場の創出が期待できる。そこに、地域の伝統文化や自然体験等との交流を加えることによって、地域への郷土愛を育てるることもでき、将来、地域に戻って、室戸市で生涯を過ごす人材の育成にもつながるため、これらの視点も総合戦略の施策に取り入れることが重要となる。



⑤安心して暮らせる地域づくり

居住環境は、人が生活をする基盤であり、人が『人らしく生きる』といった人生的な命題とも大きな関係を持つ。居住環境の目標は、一般に、①安全性、②保健性、③利便性、④快適性の4つが挙げられるが、室戸市としては、防災体制の強化、高齢化に伴う医療や福祉の充実等が大きな命題である。市民アンケートにおいても、防災に強いまちづくりを求める意見が多く、次いで、多世代交流による地域コミュニティの活性化、小さな拠点づくりが求められている。

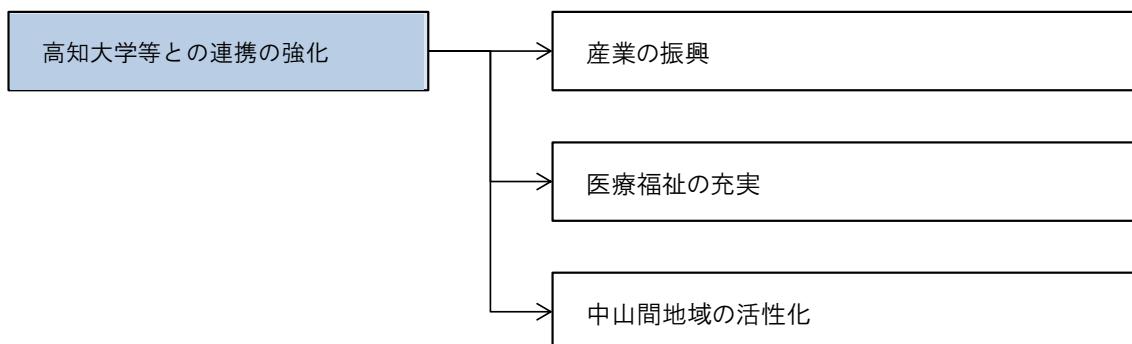
そこで、総合戦略の策定においては、上記の視点を取り入れ、市民が安心して暮らせる室戸市とするための施策の推進が必要である。



⑥高知大学等との連携の強化

今後、地域振興を図る上で、産官学民による連携は重要な視点となり、これまで以上に大学との連携が重要視されている。

室戸市は、高知大学と連携協定を結んでおり、室戸世界ジオパーク、室戸海洋深層水、地域づくり等に関する事業等に取り組んでいる。そこで、総合戦略の策定においては、今後、高知大学との連携を強化し、産業振興、医療福祉、中山間地域の活性化等の振興を図る施策の推進が必要となる。



(2) 進捗管理体制

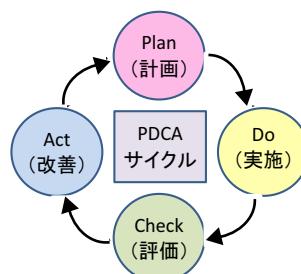
室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に当たっては、関係課長等で構成する庁内組織及び、産官学金労言の外部の委員（住民、産業界、市の代表、教育機関、金融機関、学識経験者等）で構成する委員会においてPDCAサイクル^①により取り組み状況を点検・検証し、必要な対策の追加、見直しを行い、必要に応じて、総合戦略の改定を行う。

なお、基本目標を達成するため、PDCAサイクルを回していくに当たっては、次の3つの視点からチェックを行っていく。

■チェックポイント

チェック項目	チェック内容
P D C Aシートを作成し、施策・事業の取り組み状況を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画したことが実行されているのか ・施策や事業のK P I（重要業績評価指標）の達成は可能か ・成果の最終の目標に照らして十分か
まとまった政策群ごとに、施策間の有機的な連携を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・ある施策で実施したことが、効果的に次の施策につながっているか ・一連の施策群の成果が、フィードバックを繰り返すことで、プラスの志向で、次の段階につながっているのか ・参加者がより新たな形で広がっているのか ・一連の取り組みが目指す目標につながっているのか
政策群のK P I（重要業績評価指標）が目標に向けた状況にあるかを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・どこまで進んでいるのか ・その道筋は正しいのか ・施策の投入量は足りているのか ・新たな仕組みは必要ないか

1) PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスに取り組むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

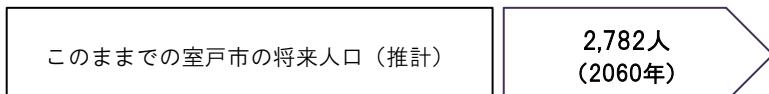


3. 基本理念と基本目標

(1) 基本理念

室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンでは、室戸市の人口を、2060年には、約8,500人と展望している。

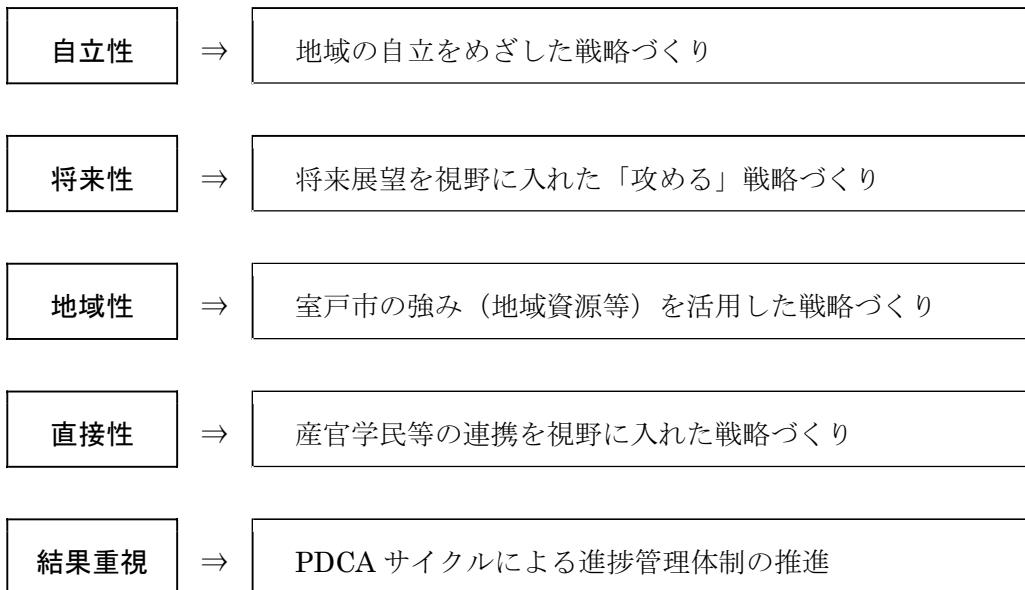
■国立社会保障・人口問題研究所による推計



■人口ビジョンによる人口の将来展望



この実現に向けて、総合戦略では、政策5原則である「自立性」「将来性」「地域性」「直接性」「結果重視」のもとに、「まち」「ひと」「しごと」を好循環して、持続可能なまちづくりの形成を図り、室戸市の人口の長期的な安定性を確保することを基本理念とする。



(2) 基本目標

①国・高知県の4つの基本目標

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、以下の4つの基本目標が設定され、人口減少への歯止めをかけ、東京一極集中の是正を進めると記載されている。

また、平成27年3月には、平成27年度版の「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、国の中の基本目標を受けて、4つの高知県版の基本目標が設定されている。

■ 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代にあった地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

■ 「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年度版）」の基本目標

- ①地産外商により安定した雇用を創出する
- ②新しい人の流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、女性の活躍の場を拡大する
- ④コンパクトな中心部と小さな拠点との連携により人々のくらしを守る

②室戸市総合戦略の基本目標

国や高知県が策定した基本目標をもとに、人口ビジョンの将来展望を踏まえ、①室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する、②室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる、③結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる、④室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する、の4つを基本目標とし、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立をめざす。

基本目標①	室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する
基本目標②	室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる
基本目標③	結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる
基本目標④	室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する

4. 基本目標別の具体的な施策とKPI（重要業績評価指標）

基本目標 1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する

基幹産業である農林水産業、室戸海洋深層水、室戸世界ジオパーク、観光等を中心 に地域資源を活用した室戸らしい産業振興と企業誘致を推進し、若者等を中心に、 安定した雇用（次世代が魅力を感じる新しい「しごと」）を創出する。

数値目標	基準値	目標値（H31）
事業所数	916	940

【基本的方向と施策区分】

基本的方向	施策区分
1-1. 攻める農林水産業の推進による産業振興の 促進	(ア)生産基盤の強化 ◆農業の振興 ◆林業の振興 ◆水産業の振興 (イ)外商の拡大 ◆農業の6次産業化の推進 ◆地域ブランドの構築による水産物の 市場開拓の強化 (ウ)雇用の創出 ◆新規就農者の確保・育成の強化 ◆林業の担い手の確保・育成の強化 ◆水産業の担い手の確保・育成の強化
1-2. 室戸海洋深層水の新たな事業展開の推進	(ア)室戸海洋深層水の有効活用の推進
1-3. 企業誘致及び雇用確保による地域の活性化	(ア)企業誘致 (イ)雇用の確保
1-4. ふるさと納税の活用による地域の活性化	(ア)ふるさと納税の活用
1-5. 観光振興による雇用の創出	(ア)人材の育成 (イ)特產品の開発

（基本目標1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する）

基本的方向	1－1．攻める農林水産業の推進による産業振興の促進	
1－1－(ア) 生産基盤の強化		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
農業生産量	3,150t／年	3,200t／年
土佐備長炭生産額	2億4千万円／年	2億7千万円／年
漁船設備の近代化隻数	0隻	15隻
具体的施策	担当課	
◆農業の振興		
①次世代型技術の普及促進	<ul style="list-style-type: none"> ・既存型ハウスへの環境制御機器の導入支援 ・次世代型ハウス・園芸用ハウスの整備支援 ・環境保全型農業の確立促進 	
②農地集積の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域農業を支える担い手に向けた農地集積の促進 ・集落営農の組織化及び法人化への支援 	
③中山間地域の維持・活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に適した農作物の導入 ・庭先集荷の推進 	
◆林業の振興		
①効率的な林産システムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・林内路網の整備 	
②健全な森づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・間伐事業の支援 ・鳥獣害対策の充実 ・協働の森づくりの推進（民間活力の導入） 	
③土佐備長炭の生産出荷の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・共同窯整備の支援 ・集出荷対策の推進 	
◆水産業の振興		
・まぐろ漁船水揚奨励金の交付	農林水産課	
・漁船設備（エンジンリース等）の近代化事業の推進	農林水産課	
・藻場調査及び漁場回復の推進	農林水産課	
・養殖事業の推進	農林水産課	

1-1-(イ) 外商の拡大		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
キラメッセ室戸「楽市」加工品販売額	2千100万円／年	3千万円／年
具体的施策		担当課
<p>◆農業の6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域農産物を活用した加工品の開発 ・キラメッセ室戸の中山間農業複合経営拠点化の推進 <p>◆地域ブランドの構築による水産物の市場開拓の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室戸魚のブランド化の促進 ・魚料理新メニュー開発事業の推進 ・新たな加工技術の推進 		
1-1-(ウ) 雇用の創出		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
農林水産業の新規就業者数	26人	66人
具体的施策		担当課
<p>◆農業の担い手の確保・育成の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の農業分野進出への支援 ・産地提案型による担い手確保の加速化 ・研修環境の整備 ・新規農業者支援事業の推進 <p>◆林業の担い手の確保・育成の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術者の育成 ・研修支援制度活用による新規製炭者の確保・育成 <p>◆水産業の担い手の確保・育成の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規漁業者支援事業の推進 		

〈基本目標1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する〉

基本的方向	1－2．室戸海洋深層水の新たな事業展開の推進	
1－2－(ア) 室戸海洋深層水の有効活用の推進		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
海洋深層水商品の販売額	140 億円／年	150 億円／年
具体的施策		担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・室戸海洋深層水の効能研究の推進 ・深層水関連商品販売促進支援事業の推進〔地方創生先行型事業〕 		商工観光深層水課 商工観光深層水課

〈基本目標1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する〉

基本的方向	1－3．企業誘致及び雇用確保による地域の活性化	
1－3－(ア) 企業誘致		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
新規企業立地件数	7 件	11 件
具体的施策		担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・海洋深層水を活用した企業誘致及び企業化支援の推進 ・コールセンター等誘致促進事業の推進 ・観光宿泊施設の誘致 		商工観光深層水課 商工観光深層水課 商工観光深層水課

1－3－(イ) 雇用の確保		
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
地域商品券発行金額	1億2千万円／年	2億4千万円／年
創業支援制度活用による新規立地件数	0件	25件
具体的施策		担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・地域商品券発行事業〔地域消費喚起・生活支援型事業〕 ・市内企業の支援、市外流出対策 ・創業支援制度の活用 		商工観光深層水課 商工観光深層水課 商工観光深層水課

〈基本目標1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する〉

基本的方向	1－4. ふるさと納税の活用による地域の活性化	
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)
ふるさと納税額	1億5千万円／年	4億円／年
具体的施策		担当課
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税PRの拡充（ムービー、特集） ・ふるさと体験ツアーの推進 ・ふるさと自治体連携体制の構築 ・室戸市通販サイトの充実 		総務課 総務課 総務課 総務課

〈基本目標1 室戸らしい産業振興を中心に安定した雇用を創出する〉

基本的方向	1－5. 観光振興による雇用の創出			
地域でのジオガイドの育成、さらには、商工・観光事業者等によるオリジナルグッズ（土産品）の開発・販売に取り組み、室戸世界ジオパーク観光をさらに磨き上げ、観光関連事業における雇用の創出を図る。				
1－5－(ア) 人材の育成				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
ジオガイド養成登録者数	58人	68人		
具体的施策	担当課			
・ジオガイド育成事業の推進	ジオパーク推進課			
1－5－(イ) 特產品の開発				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
商品化数	0点	5点		
具体的施策	担当課			
・室戸土産商品化事業の推進	ジオパーク推進課 商工観光深層水課			

基本目標 2 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる

平成27年に世界ジオパークに再認定され、国際交流への期待が高まる「室戸世界ジオパーク」を最大限に活かし、さらに、自然体験、文化・歴史体験による滞在型交流の拡充に取り組み、これらを連携させることによって、地域イメージの向上と受け入れ体制の強化を図り、室戸市に新しい人の流れをつくり、交流人口の拡大と移住促進を図る。

数値目標	基準値	目標値（H31）
主要観光施設入館者数	15万人／年	18万人／年
移住者数	41人	461人

【基本的方向と施策区分】

基本的方向	施策区分
2-1. 地域資源を活かした交流の推進	(ア)体験型観光の推進 (イ)イベント・スポーツ合宿の充実
2-2. 新たな観光施設等の整備	(ア)施設等の整備 (イ)公共交通の充実
2-3. 室戸世界ジオパークを軸とした観光振興の強化	(ア)人材の育成 (イ)情報の発信 (ウ)国際観光の推進
2-4. 若者から高齢者までの出会いを大切にする 「逢いターン」とふるさとへの帰郷を支援する 「結ターン」による移住の促進	(ア)移住促進のPR (イ)移住環境の整備

〈基本目標2 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる〉

基本的方向	2-1. 地域資源を活かした交流の推進			
<p>体験型観光の推進を通して、新たな地域のファンの獲得に取り組むとともに、マラソンやトライアスロン等のスポーツイベント、祭りや歴史文化を活用したイベント、へんろ道ウォーキング等といった交流事業を推進し、広域連携等の活用を図り、国内外からの新しい人の流れをつくる。</p> <p>また、スポーツ関連施設等の整備・活用に取り組み、大学等のスポーツ合宿の誘致を推進する。</p>				
2-1-(ア) 体験型観光の推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
ツアーパートナー数	0人	1,000人		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の活用・承継（神祭ツアーナーの実施） ・AMA 地域連携事業の拡大 ・恋人の聖地プロジェクトの拡充 ・ジオツアーナー（ブラッシュアップ事業）の推進 ・ふるさと旅行券の発行〔地域消費喚起・生活支援型事業〕 	商工観光深層水課 商工観光深層水課 商工観光深層水課 ジオパーク推進課 商工観光深層水課			
2-1-(イ) イベント・スポーツ合宿の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
各種イベント参加者数合計	600人／年	5,500人／年		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・室戸岬健康マラソンの拡充 ・室戸ジオパークトライアスロンの拡充 ・高知県少年野球春季選手権大会の拡充 ・文化財を活用した観光振興の推進〔地方創生先行型事業〕 ・各種スポーツ合宿の充実 ・広域連携による観光イベントの充実 ・広域連携協議会組織化の推進 	生涯学習課 商工観光深層水課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 商工観光深層水課 商工観光深層水課			

〈基本目標2 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる〉

基本的方向	2－2. 新たな観光施設等の整備			
<p>旧小学校校舎を活用し、ウミガメの研修施設やミニ水族館等を整備し、新たな観光施設による交流の促進を図る。</p> <p>また、室戸市内の海域のダイビングスポットを活用し、関西圏を視野に入れたダイビングの受け入れ体制づくりとドルフィンセンターの機能充実に取り組み、「海の駅ともむ」を核とした新たな交流の促進を図る。</p> <p>現在の室戸市では、一般乗合バスが主な公共交通機関となっている。今後は、連絡バス等の運行が必要であり、空港連絡バスの充実等に取り組み、公共交通機関による集客促進を推進する。</p>				
2－2－(ア) 施設等の整備				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
新たな観光施設利用者数	0人／年	4万人／年		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・旧椎名小学校利活用（ミニ水族館）の推進 ・ダイビング事業の推進 ・室戸市中央公園の整備・活用の推進 ・海の駅（民間施設）の支援 		商工観光深層水課 商工観光深層水課 生涯学習課 商工観光深層水課		
2－2－(イ) 公共交通の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
空港連絡バス利用者数	0人／年	500人／年		
具体的施策		担当課		
・公共交通の充実（空港からの連絡バス対策）		企画財政課		

〈基本目標2 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる〉

基本的方向	2-3. 室戸世界ジオパークを軸とした観光振興の強化			
<p>平成27年にオープンした室戸世界ジオパークセンターを軸として、今後は、室戸世界ジオパーク観光をさらに磨き上げ、体験プログラムインストラクターの養成や観光プロモーション等、情報の発信に取り組み、外国人観光客の集客も視野に入れて、新たな交流の促進を図る。</p>				
2-3-(ア) 人材の育成				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
体験プログラムインストラクター養成登録者数	5人	10人		
具体的施策	担当課			
・体験プログラムインストラクター育成事業の推進	ジオパーク推進課			
2-3-(イ) 情報の発信				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
室戸世界ジオパークセンター入館者数	0人／年	7万人／年		
具体的施策	担当課			
・情報発信事業（ポータルサイト機能の整備、webマガジン、SNS等の活用）	ジオパーク推進課			
・観光プロモーション活動の推進〔上乗せ交付金事業〕	ジオパーク推進課			
・Wi-Fi環境整備事業の推進	ジオパーク推進課			
2-3-(ウ) 国際観光の推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
主要パンフレット等 3種類 4カ国語化	33%(現在1種類)	100%		
具体的施策	担当課			
・インバウンド対策の強化（外国人観光客おもてなし事業、外国語対応ガイド育成事業）	ジオパーク推進課			
・広告物多言語化事業の推進	ジオパーク推進課			

（基本目標2 室戸世界ジオパークを活かし、国内外から新しい人の流れをつくる）

基本的方向	2-4. 若者から高齢者までの出会いを大切にする「逢いターン」とふるさとへの帰郷を支援する「結ターン」による移住の促進			
室戸市移住促進ホームページを充実させ、都市圏の若者やアクティブシニア等との出会いの創出（逢いターン）、室戸市出身者等へのふるさと情報の発信（結ターン）等に取り組み、移住促進のPRと移住環境の整備を推進する。また、移住サポーターの増員により、地域の移住促進事業の意識の向上を図り、室戸市への移住を促進する。				
2-4-(ア) 移住促進のPR				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
移住ホームページアクセス数	8,750件／年	10,000件／年		
移住相談件数	145件	400件		
具体的施策	担当課			
・空き家情報の発信 ・移住ムービーの作成 ・移住相談会への参加 ・仕事情報の発信 ・体験ツアーの実施（山村留学、農林水産業体験等）	企画財政課 企画財政課 企画財政課 企画財政課 企画財政課			
2-4-(イ) 移住環境の整備				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
空き家バンク登録件数	0件	100件		
移住体験住宅利用者数	292人	800人		
具体的施策	担当課			
・室戸市移住サポーターの増員拡充 ・チャレンジショップ（空き店舗を活用した創業・起業者への支援） ・空き家バンク制度活用の推進 ・空き家活用事業の推進 ・移住体験住宅の利用促進 ・高台移転計画の推進 ・移住看護師に対する助成の推進 ・地域おこし協力隊の増員	企画財政課 商工観光深層水課 企画財政課 企画財政課 企画財政課 総務課 保健介護課 企画財政課			

基本目標 3 結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる

人口の長期的な安定性の確保を図るために、若年女性の人口流出の抑制と出生率の上昇をめざし、若者等の出会い・結婚・妊娠・出産・子育て等を切れ目なく支援するとともに、職場や家庭で、若者が活躍する環境整備を促進する。

さらに、子どもたちの学力の向上と心豊かな成長を促す学習環境を整備し、室戸の次世代を育てる。

数値目標	基準値	目標値（H31）
合計特殊出生率	1.46	1.50

【基本的方向と施策区分】

基本的方向	施策区分
3-1. 出会い・結婚・妊娠・出産の総括的なサポート体制の整備	(ア)出会いのきっかけづくり事業の推進 (イ)産前・産後ケアの充実、不妊治療への助成
3-2. 女性の活躍の場を応援する切れ目ない子育て支援	(ア)経済的負担の軽減 (イ)ワーク・ライフ・バランスの推進 (ウ)子育て支援の充実
3-3. 心身の健やかな成長に資する保育・教育環境の整備	(ア)地域との交流推進 (イ)保育・教育環境の充実

〈基本目標3 結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる〉

基本的方向	3-1. 出会い・結婚・妊娠・出産の総括的なサポート体制の整備			
<p>室戸市の男女の未婚対策として、出会いのきっかけづくり等を支援し、未婚化・晩婚化の改善を図る。</p> <p>また、室戸市には、産婦人科等の専門医療機関がないため、産婦人科への受診助成、産前・産後ケア、さらには、不妊治療の助成に至る総括的なサポート体制を構築し、若い世代の結婚・出産への不安の解消を図り、結婚、並びに、出生率の向上をめざす。</p>				
3-1-(ア) 出会いのきっかけづくり事業の推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
イベント参加者数	0人／年	50人／年		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・恋人の聖地等を活用した出会い・結婚イベント事業の推進 ・居酒屋等巡りツアーや事業の推進 ・田舎体験お見合いツアー（都会向け）の推進 ・もてなしお見合い企画の誘致 ・都会へ嫁さがし事業の推進 		商工観光深層水課 商工観光深層水課 企画財政課 企画財政課 企画財政課		
3-1-(イ) 産前・産後ケアの充実、不妊治療への助成				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
不妊、不育治療助成者数	0人	65人		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・不妊、不育治療事業の推進〔地方創生先行型事業〕 ・産婦人科受診に対する助成事業の推進 ・安全な出産のための相談・教育機会の提供 ・乳幼児健診の充実 		保健介護課 保健介護課 保健介護課 保健介護課		

〈基本目標3 結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる〉

基本的方向	3－2. 女性の活躍の場を応援する切れ目ない子育て支援			
<p>子育てに関わる経済的負担の軽減、延長保育等による子育て支援の充実、職場や家庭でのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進等を軸に、室戸市で働く女性の活躍の場を応援し、子どもの成長に伴い、切れ目ない子育てを支援することで、若者夫婦、並びに、若い子育て世代の生活支援を推進する。</p>				
3－2－(ア) 経済的負担の軽減				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
生まれてくる子どもの数	45人／年	60人／年		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て祝い金の交付 ・室戸高校入学準備金の交付 ・おむつ＆ミルクの助成事業の推進 ・延長保育の充実 ・第二子、第三子の保育料無料化 ・医療費助成制度(中学生までを対象)の推進 	保健介護課 学校保育課 保健介護課 学校保育課 学校保育課 福祉事務所			
3－2－(イ) ワーク・ライフ・バランスの推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
広報等での啓発数	2回／年	6回／年		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・育児休業制度・看護休暇制度の普及啓発の促進 ・家庭における男女共同参画意識の啓発の促進 	人権啓発課 人権啓発課			
3－2－(ウ) 子育て支援の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
各種事業の参加者数合計	2,456人／年	2,584人／年		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援総合窓口の設置 ・つどいの広場の実施「子育てひろば」「ぱくぱく教室」 ・障がい児育児支援教室「ゆうゆうひろば」の充実 ・子どもの居場所づくり事業の推進〔地方創生先行型事業〕 ・放課後子ども教室の充実 ・放課後児童クラブの充実 	保健介護課 保健介護課 保健介護課 学校保育課 生涯学習課 生涯学習課			

〈基本目標3 結婚・出産・子育て・教育を応援し、室戸の次世代を育てる〉

基本的方向	3-3. 心身の健やかな成長に資する保育・教育環境の整備			
<p>高度情報化、グローバル化等が進むなかで、幅広い視野を持って、社会で活躍する人材の育成を目標に、学校教育、家庭学習、郷土学習、地域行事への参加等を通して、次世代を担う室戸市の子どもたちの学力の向上と心身の健やかな成長に資する環境づくりを推進する。</p> <p>また、室戸高校の魅力化と情報発信の強化を図り、市内及び周辺市町村からの生徒の募集を図る。</p>				
3-3-(ア) 地域との交流推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
交流事業回数	9回／年	11回／年		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の地域活動事業の推進 ・小・中学生の伝統芸能等の地域行事への積極的な参加の推進 ・中・高校生の体験学習事業の推進 		学校保育課 学校保育課 学校保育課		
3-3-(イ) 保育・教育環境の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
ゆたかな保育事業参加者数	0人／年	1,000人／年		
校舎等耐震化率	89.47%	100%		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・ゆたかな保育事業の推進〔地方創生先行型事業〕 ・学力向上事業の推進 ・ゆたかな心の形成事業の充実 ・通学路・通園路の安全環境の整備 ・耐震化の推進（学校、保育） ・交通安全教室の充実 ・室戸高校の魅力の発信（オープンキャンパス・総合学科の発表会） 		学校保育課 学校保育課 学校保育課 建設課 学校保育課 総務課 学校保育課		

基本目標 4 室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する

高齢者や障がい者が安心して暮らせるまちづくり、地域住民の健康と生命を守る医療福祉の充実等を図り、住み慣れたふるさとで生涯暮らす生活環境づくり（加速する高齢化社会への対策）を推進し、市外への人口流出の抑制をめざす。

また、介護、集落での活動、防災等においては、地域住民による互いに助け合う活動等を支援し、地域住民を主体とした地域コミュニティの形成を図るとともに、地域と地域が連携することによって、人にやさしいまちづくりを推進する。

数値目標	基準値(H22)	目標値(H31)
平均寿命(男)	77.4歳	78.9歳
平均寿命(女)	85.5歳	86.5歳

【基本的方向と施策区分】

基本的方向	施策区分
4-1. 高齢者、障がい者が安心して暮らせる 環境づくり	(ア)高齢者・障がい者支援の充実 (イ)健康づくりの推進
4-2. 地域医療を充実し、市民の生命を守る	(ア)医療の充実
4-3. 地域課題を自ら解決する地域コミュニティの 整備	(ア)小さな拠点づくり (イ)地域住民が互いに助け合う人材や組織の育成

〈基本目標4 室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する〉

基本的方向	4-1. 高齢者、障がい者が安心して暮らせる環境づくり			
高齢者や障がい者への支援の充実、さらには、健康の増進につとめ、介護やボランティア等の人才育成の推進、外出支援、買い物支援等に取り組み、住み慣れた室戸市で、健康で生きがいをもって、安心して心豊かに暮らせる生活環境づくりを推進する。				
4-1-(ア) 高齢者・障がい者支援の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
介護職員初任者研修修了者数	0人	20人		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の育成 ・障がい者への情報支援 ・オールマイティボランティアの養成 ・外出支援事業の推進 ・買い物支援事業の推進 [地方創生先行型事業] 		保健介護課 保健介護課 保健介護課 保健介護課 保健介護課 保健介護課		
4-1-(イ) 健康づくりの推進				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
むろと健康ダイヤル24利用件数	168人／年	360人／年		
具体的施策		担当課		
<ul style="list-style-type: none"> ・健康マイレージ事業の推進 ・むろと健康ダイヤル24の推進 ・健康食啓発事業の推進 		保健介護課 保健介護課 保健介護課		

〈基本目標4 室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する〉

基本的方向	4－2. 地域医療を充実し、市民の生命を守る			
<p>室戸市の医療機関は小規模な病院等が多く、診療科目によっては、市外の医療機関に依存する場合が多い。特に、救急患者の搬送、入院や手術をする高度な医療については、市外の病院を選択せざるを得ない状況であり、通院等も含めて、経済的な負担は大きくなっている。</p> <p>そこで、地域医療の充実に向けて、市立診療所の設置、医師の誘致を図るとともに、高知大学医学部や県内の中核医療機関等との連携を強化する。</p> <p>また、復職や新規採用、UI ターンによる看護師の雇用を支援し、喫緊の課題である看護師や医師の確保を促進する。</p>				
4－2－(ア) 医療の充実				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
看護師の確保人数	0 人	10 人		
市立診療所設置数	0 施設	1 施設		
具体的施策	担当課			
<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の確保対策〔地方創生先行型事業〕 ・医師の誘致 ・市立診療所設置の推進 ・大学病院、中核医療機関等との連携の強化 	保健介護課 保健介護課 保健介護課 保健介護課			

〈基本目標4 室戸の地域力を高め、人にやさしいまちづくりを推進する〉

基本的方向	4－3．地域課題を自ら解決する地域コミュニティの整備			
<p>室戸市サポートコミュニティホーム計画を推進し、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉等の各制度に基づくサービスの効率的な提供を図るとともに、地域交流や支え合いの拠点機能として、あつたかふれあいセンター事業を推進する。</p> <p>また、集落の維持・再生の仕組みづくりとして、モデル地区を選定し、地域活性化活動を通して、集落活動センター事業の推進を図る。</p> <p>さらに、自主防災組織による連絡協議会の設置等を支援し、地域住民が互いに助け合う人材や組織の育成、並びに、子ども防災リーダーの育成等を推進するとともに、南海トラフ地震への対策として、地震津波対策ハード整備の推進を図る。</p>				
4－3－(ア) 小さな拠点づくり				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
あつたかふれあいセンター利用者数	10.7人／日	15人／日		
具体的施策		担当課		
・室戸市サポートコミュニティホーム計画の推進 (サービス付高齢者住宅の整備、障がい者グループホームの整備、買い物ツアーや実施)		保健介護課		
・集落活動センター事業の推進		企画財政課		
・コミュニティセンター事業の推進		企画財政課		
・室津避難港を含むまちづくり計画の推進		総務課		
・あつたかふれあいセンター事業の推進 [地方創生先行型事業]		保健介護課		
4－3－(イ) 地域住民が互いに助け合う人材や組織の育成				
指標	基準値	KPI (H31 重要業績評価指標)		
防災士認定者数	13人	50人		
自主防災組織連絡協議会設置数	2組織	5組織		
具体的施策		担当課		
・自主防災組織による防災訓練の実施		防災対策課		
・自主防災組織が行う避難路整備や資機材整備への支援		防災対策課		
・子ども防災リーダーの育成		防災対策課		
・防災士養成事業の推進		防災対策課		
・自主防災組織連絡協議会の組織化の推進		防災対策課		
・地震津波対策ハード整備の推進		防災対策課		

【資料編】

1. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

(1) 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例

平成27年5月13日

条例第28号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「総合戦略」という。)の策定及び推進にあたり、広く関係者の意見を反映するため、室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査、審議し、市長に答申するものとする。

- (1) 総合戦略の策定に関する事項
- (2) 総合戦略の推進に関する事項
- (3) その他総合戦略に関し必要な事項

(組織)

第3条 審議会は、委員25人以内で組織する。

2 審議会は、次の各号に掲げるもののうちから、市長が委嘱する。

- (1) 住民団体等の代表
- (2) 産業関係者
- (3) 行政関係者
- (4) 学識経験者
- (5) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員の再任は、妨げない。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集し、その議長となる。

2 審議会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

(意見聴取)

第7条 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して出席を求める、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、企画財政課において処理する。

(その他)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

(2) 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員の構成

氏名	所属	備考
赤池 慎吾	高知大学地域連携推進センター 特任講師	大学(委員長)
青木 準吉	室戸市連合常会長会 会長	住民代表(副委員長)
山下 福惠	室戸市連合婦人会 会長	住民代表
町田 純一	室戸市 PTA 連絡協議会 会長	住民代表
谷口 喜美	NPO 法人室戸を元気にする会 理事	住民代表
町田 真弓	むろとジオラブカンパニー 代表	住民代表
尾崎 文彦	室戸市産業者会議 農林部門会議部長	産業界
竹本 昭光	室戸市産業者会議 水産部門会議部長	産業界
富岡 一成	室戸市商工会 会長	産業界
河上 倫子	室戸市観光協会 事務局長	産業界
竹中 幸市	高知海洋深層水企業クラブ 会長	産業界
黒岩 辰徳	製炭者代表	産業界
堅田 栄一	高知県室戸高等学校 校長	高校
川澤 慶洋	高知県地域産業振興監	行政機関
佐藤 まゆみ	高知県地域支援企画員(総括)	行政機関
三本 雄大	高知県地域支援企画員	行政機関
石川 昇	国立青少年自然の家 所長	行政機関
福永 正和	四国銀行室戸支店 支店長	金融機関
森田 宗利	高知銀行室戸支店 支店長	金融機関
澤谷 良憲	安芸公共職業安定所 所長	労働団体
植村 幸治	室戸市シルバー人材センター 事務局長	労働団体
松澤 綾	エフビットコミュニケーションズ(株) 室戸支店 ディレクター	メディア

2. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部

(1) 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部設置要綱

平成27年1月21日
室戸市訓令第1号

(設置)

第1条 まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条第1項に規定する市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）の策定及び推進にあたり全庁的に取り組むため、室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部（以下「本部」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 本部の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 地方人口ビジョン、総合戦略の策定に関する事項
- (2) 各施策の推進に関する事項
- (3) その他本部長が必要と認める事項

(組織)

第3条 本部は、本部長、副本部長及び本部員をもって組織する。

2 本部長、副本部長及び本部員は、別表に掲げる職にある者をもって充てる。

(職務)

第4条 本部長は、本部を総括し、その議長となる。

2 副本部長は、本部長を補佐し、本部長に事故あるときは、その職務を代理する。
3 本部員は、総合戦略の策定と実行に向けて、関係部局との調整及び連携を行う。

(会議)

第5条 本部会議は、本部長が必要に応じて招集する。

2 本部長が認めたときは、本部員以外の者を本部会議に出席させ、説明を求め、又は意見の聴取をすることができる。
3 本部員で当該職にある者が会議に出席できないときは、課長補佐等代理の出席を妨げないものとする。

(部会等)

第6条 本部長は、各分野の施策等を検討・調整するため、必要に応じて部会、ワーキンググループ等を設置することができる。

(庶務)

第7条 本部の庶務は、企画財政課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、本部の運営に関する必要な事項は、本部長が別に定める。

附 則

この訓令は、平成27年1月21日から施行する。

別表(第3条関係)

本部長	市長
副本部長	副市長
本部員	総務課長
	企画財政課長
	財産管理課長
	税務課長
	市民課長
	保健介護課長
	人権啓発課長
	農林水産課長
	建設課長
	商工観光深層水課長
	ジオパーク推進課長
	滞納整理課長
	防災対策課長

3. 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定の流れ

戦略の策定においては、室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会、室戸市まち・ひと・しごと創生推進本部会、ワーキンググループ(※1)の3つの組織において報告・討議を行った。策定の流れは、以下のとおりである。

(1) 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

	日 時	議 題
第1回	平成27年6月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・会長、副会長の選任 ・総合戦略策定の概要及びスケジュール
第2回	平成27年7月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・室戸市の人口、人口ビジョン ・土佐備長炭の取り組み ・ワーキンググループの協議結果の報告
第3回	平成27年7月30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の構成(案)
第4回	平成27年8月24日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来人口展望の報告 ・アンケート結果の報告 ・総合戦略(素案)の検討
第5回	平成27年9月7日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・人口ビジョンの報告 ・総合戦略(原案)の検討

(2) 室戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会

	日 時	議 題
第1回	平成27年2月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略策定の概要
第2回	平成27年6月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略の構成(案)
第3回	平成27年7月22日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・室戸市の人口の現状の報告 ・総合戦略の基本目標及び方向性の検討
第4回	平成27年8月18日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・将来人口展望の報告 ・アンケート結果の報告 ・総合戦略(素案)の検討
第5回	平成27年9月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合戦略(原案)の検討

※1 ワーキンググループ…庁内各課の課長補佐、班長級職員から構成された組織。(合計21名)

(3) ワーキンググループ

	日 時	議 題
第1回	平成27年6月3日(水)	・人口ビジョンの中間報告 ・プロジェクトの抽出
第2回	平成27年6月11日(木)	・プロジェクトの整理・絞り込み
第3回	平成27年7月14日(火)	・プロジェクトの絞り込み結果の報告 ・基本目標の検討
第4回	平成27年8月31日(月)	・人口ビジョンの報告 ・アンケート結果の報告 ・総合戦略(素案)の報告 ・基本理念の検討

4. 市民アンケートの結果

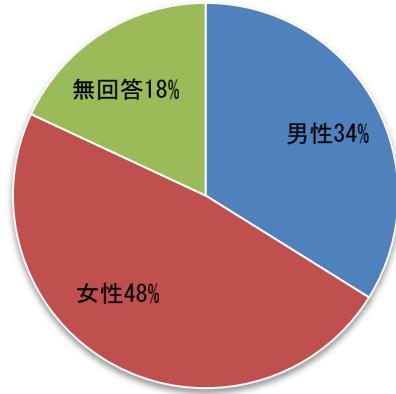
(1) アンケートの概要

- 対象：18歳以上の市民から2000人を無作為に選出
- 実施期間：7月24日～8月7日
- 実施方法：対象者に対して筆記式アンケートを郵送
- 回収率：24.6% (493通/2000通)

(2) アンケートの結果

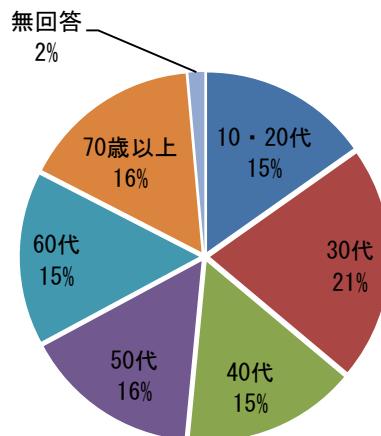
問1（1）あなたの性別を教えてください。

男性	167人	(34%)
女性	237人	(48%)
無回答	89人	(18%)
<hr/>		493人



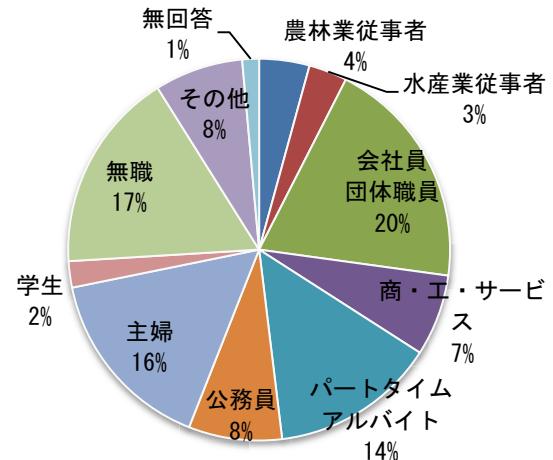
問1（2）あなたの年齢を教えて下さい。

10・20代	75人	(15%)
30代	103人	(48%)
40代	76人	(21%)
50代	77人	(15%)
60代	76人	(16%)
70歳～	79人	(15%)
無回答	7人	(1%)
<hr/>		493人

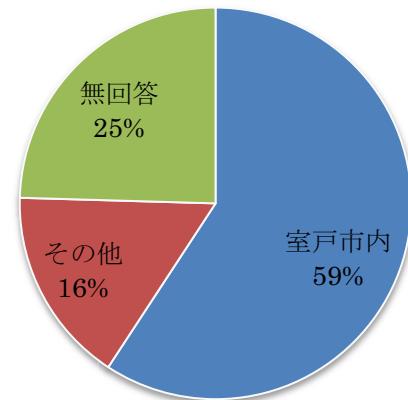


問1（3）あなたの職業を教えてください。

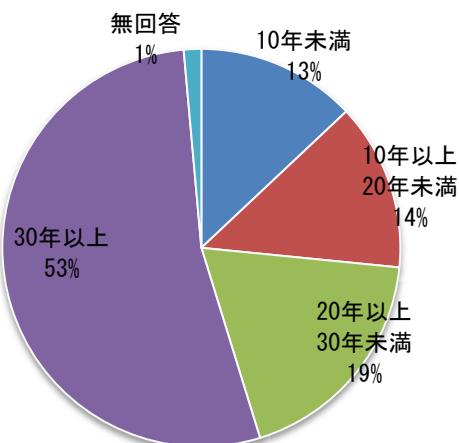
農林業従事者	21人	(4%)
水産業従事者	16人	(3%)
会社員・団体職員	97人	(20%)
商・工・サービス業など	34人	(7%)
パートタイム・アルバイト	69人	(14%)
公務員	39人	(8%)
主婦	78人	(16%)
学生	11人	(2%)
無職	84人	(17%)
その他	37人	(8%)
無回答	7人	(1%)
	493人	

**問1（4）あなたのお住まいの地域を教えて下さい。**

室戸市内	292人	(59%)
その他	80人	(16%)
無回答	121人	(25%)
	493人	

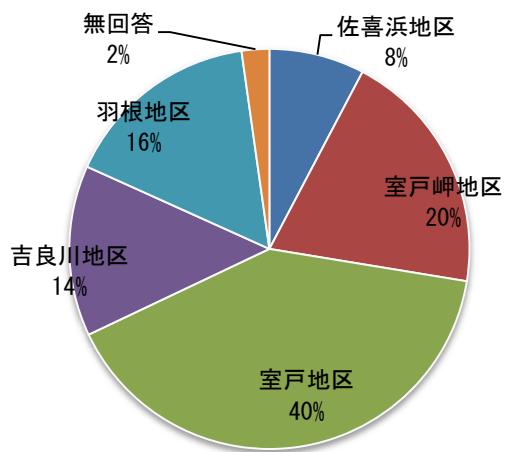
**問1（5）あなたは何年間室戸にお住いですか。**

～10年未満	64人	(13%)
10年以上20年未満	67人	(14%)
20年以上30年未満	92人	(19%)
30年以上	263人	(53%)
無回答	7人	(1%)
	493人	



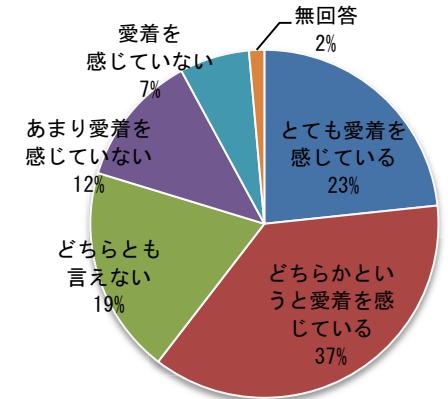
問1（6）お住まいの地区を教えて下さい。

佐喜浜	38人	(8%)
室戸岬	98人	(20%)
室戸	199人	(40%)
吉良川	68人	(14%)
羽根	79人	(16%)
無回答	11人	(2%)
	493人	



問2 あなたは室戸市に対して「自分のまち」としての愛着をどの程度感じていますか。

1.とても愛着を感じている	115人	(23%)
2.どちらかというと愛着を感じている	18人	(37%)
3.どちらとも言えない	95人	(19%)
4.あまり愛着を感じていない	61人	(12%)
5.愛着を感じていない	32人	(6%)
無回答	7人	(1%)
	493人	



一年代別集計

■ 10代・20代

とても愛着を感じている	14人	(29%)
どちらかといふと愛着を感じている	18人	(23%)
どちらとも言えない	17人	(26%)
あまり愛着を感じていない	10人	(12%)
愛着を感じていない	16人	(9%)
	75人	

■ 30代

とても愛着を感じている	18人	(18%)
どちらかといふと愛着を感じている	39人	(38%)
どちらとも言えない	22人	(21%)
あまり愛着を感じていない	18人	(17%)
愛着を感じていない	6人	(6%)
	103人	

■ 40代

とても愛着を感じている	16人	(21%)
どちらかといふと愛着を感じている	32人	(42%)
どちらとも言えない	16人	(21%)
あまり愛着を感じていない	7人	(9%)
愛着を感じていない	5人	(7%)
	76人	

■ 50代

とても愛着を感じている	25人	(32%)
どちらかといふと愛着を感じている	22人	(28%)
どちらとも言えない	12人	(16%)
あまり愛着を感じていない	13人	(17%)
愛着を感じていない	3人	(4%)
無回答	2人	(3%)
	75人	

■ 60代

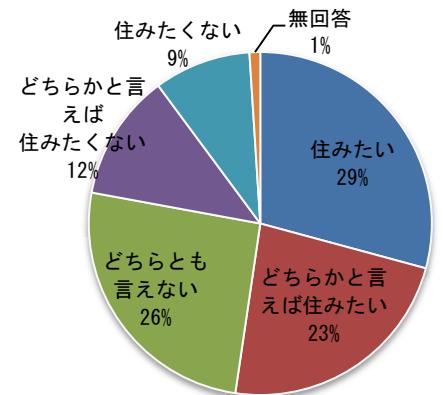
とても愛着を感じている	17人	(22%)
どちらかといふと愛着を感じている	32人	(42%)
どちらとも言えない	14人	(18%)
あまり愛着を感じていない	5人	(7%)
愛着を感じていない	6人	(8%)
無回答	2人	(3%)
	75人	

■ 70歳以上

とても愛着を感じている	23人	(29%)
どちらかといふと愛着を感じている	31人	(39%)
どちらとも言えない	14人	(18%)
あまり愛着を感じていない	6人	(8%)
愛着を感じていない	3人	(4%)
無回答	2人	(2%)
	79人	

問3—1 あなたはこれからも室戸市に住みたいと思いますか。

1.住みたい	144人 (29%)
2.どちらかと言えば住みたい	114人 (23%)
3.どちらとも言えない	126人 (26%)
4.どちらかと言えば住みたくない	59人 (12%)
5.住みたくない(できれば市外に引越したい)	45人 (9%)
無回答	5人 (1%)
	493人



—年代別集計—

■ 10代・20代

住みたい	14人 (29%)
どちらかと言えば住みたい	18人 (23%)
どちらとも言えない	17人 (26%)
どちらかと言えば住みたくない	10人 (12%)
住みたくない(できれば引越したい)	16人 (9%)
	75人

■ 50代

住みたい	29人 (38%)
どちらかと言えば住みたい	17人 (22%)
どちらとも言えない	17人 (22%)
どちらかと言えば住みたくない	12人 (15%)
住みたくない(できれば引越したい)	2人 (3%)
	77人

■ 30代

住みたい	21人 (20%)
どちらかと言えば住みたい	23人 (22%)
どちらとも言えない	30人 (29%)
どちらかと言えば住みたくない	16人 (16%)
住みたくない(できれば引越したい)	13人 (13%)
	103人

■ 60代

住みたい	22人 (29%)
どちらかと言えば住みたい	20人 (26%)
どちらとも言えない	20人 (26%)
どちらかと言えば住みたくない	7人 (9%)
住みたくない(できれば引越したい)	5人 (7%)
無回答	2人 (3%)
	76人

■ 40代

住みたい	22人 (29%)
どちらかと言えば住みたい	16人 (21%)
どちらとも言えない	22人 (29%)
どちらかと言えば住みたくない	8人 (11%)
住みたくない(できれば引越したい)	7人 (9%)
無回答	1人 (1%)
	76人

■ 70歳以上

住みたい	33人 (42%)
どちらかと言えば住みたい	19人 (24%)
どちらとも言えない	19人 (24%)
どちらかと言えば住みたくない	5人 (6%)
住みたくない(できれば引越したい)	2人 (3%)
無回答	1人 (1%)
	79人

問3—2 問3—1の理由(年代別集計で意見の多かった3つを抽出)

【10・20代】

●愛着があるから。故郷だから。(14件)

「愛着があるから。」「地元がいい。」「生まれ育ったところだから。地元を離れたくないし、自然に囲まれていていいからです。」「生まれ育った町であるため。故郷だから。」

●人が良いから(6件)

「地元は違うけど引っ越してきて、人が優しいので室戸にずっと住みたいと思う。」「少し暮らしにくいがほっこりする人間関係があるので。」「知り合いばかりで、住みやすい、情に熱い。」

●自然が豊かだから(4件)

「交通の便が悪い。が、田舎の環境は大好き」「贅沢を言わなければ、自然に囲まれ生きていくにはとっても良い環境。」「自然が豊かでのんびり」

●不便だから(9件)

「何をするにも不便だから。」「交通の便が少ない、学校や病院等の施設が少ない」「病院・障がい者施設等が少なく不便であるため。」「学校、病院、公共交通機関、公共施設の不足」

●仕事がないから(8件)

「室戸では就職先がない。もっと若者が働く町ならいいが、今の状態なら住めない。働く所がたくさんある高知市内に住んだほうがいいと思うから。」「食っていけるだけの給料が得られる仕事が無い。」「仕事がなく、仕事をしても給料が少なく生活できない。まじめに働いている人より生活保護をもらっている人のほうが多く金額をもらっているのでばからしくなる。」「愛着はあるが、現実問題として就職のことを考えると厳しいと思うので住みたくても住めないのでと思う。」

●娯楽施設がないから(4件)

「高知市内は娯楽施設が充実しているから。」「田舎すぎて特に遊ぶところもなく残念。」「自然が多いのは良い所だが、もう少し遊ぶ所が欲しい。」「娯楽趣味を広げることができない。」

【30代】

●愛着があるから。住み慣れているから(13件)

「愛着があるから。」「生まれ育った町であり親も近くに住んでいる。交通の便など不満なところはあるが、そこまで気にならない。」「住み慣れた地が一番。安心。」「ずっと住んできたから。」

●自然が豊かだから(12件)

「自然に恵まれているから。」「自然、食料が豊富。」「自然が多く、食べ物がうまい。」

●子育てに良い環境だから(3件)

「自然が豊かで子育てにはいいと思う。」「自然がいっぱい子どもをのびのびと育てたいので。」

●医療環境が十分でないから(14件)

「急病時の救急体制が不安。」「病院や店も衰退していっているので、年を重ねた時に住み続けるのか不安。病院に通うことができなくなると思う。」「病院が近くにない病気、事故になった時、充実した病院が無いため不安。」

●交通の便が悪いから(12件)

「交通の便悪い。」「人や町は好き。ただし交通の便は良くない。高速道路がいると思う。」

●仕事がないから(8件)

「仕事がない。」「将来の仕事や転職が不安。」「収入不安定なため。」仕事の選択肢がない

【40代】

●自然が豊かだから(13件)

「自然豊か。」「自然豊かで食べるのがおいしいから。」「自然が残っている。」「静か、環境がいい。」

●愛着があるから。住み慣れているから(10件)

「愛着がある。」「住み慣れた場がいい。」「ずっと室戸に住んでいるから故郷だから。」

●子育てに良い環境だから(4件)

「子どもを育てる環境がいい。」「自然の多い室戸で育児をしたい。」「山、海、川の自然があり、その中で子供たちに学び育って欲しいから。」

●医療環境が十分でないから(9件)

「診察項目の多い病院開院。」「病院が少ない病院が無く不便。医療機関もないか市外へ出て行くしかない。」

●仕事がないから(7件)

「仕事が少ない、収入が少ない、室戸市に雇用がないためできれば住みたいが働く場所がない。」「現在、家族がバラバラに生活している。子供たちは仕事がないということで県外にいる。」

●子育てしにくい環境だから(7件)

「子育て世代が過ごしにくい育児に不便。」「通学のバス整備が必要教育環境の将来が不安。」「子供の遊び場がない。学校減少。」

【50代】

●愛着があるから。住み慣れているから(17件)

「住めば都」「住み慣れているから。やはり故郷ですから。」

「住み慣れたところなのでこれから的人生も室戸で。」「住み慣れた風土。」「故郷だから。」

●自然が豊かだから(9件)

「自然豊か、心豊かに暮せる場所。」「自然が沢山あるところ」「四季の果物、自然が溢れている場所」

●人が良いから(5件)

「地域の人情が熱い。」「人間関係を大事にしたい。」「人間関係がやりやすく人当たりも悪くないのでいたいと思う。」「市民が愛着を持ち地域のことに一生懸命活動している。」

●医療環境が十分でないから(8件)

「愛着はあるが、医療設備では今後も住み続けるのが不安。」「病院がない。」「環境がよく、住みやすいと思うが病院が少なく、体調が悪くなった時が不安。」「加齢により自家用車の運転が難しくなった場合、通院ができなくなるのが不安。」「安心できる病院がない。」

●交通の便が悪いから(6件)

「交通の便が悪いため。」「交通等が不便。高知市内まで遠い。」

●災害が不安だから(4件)

「津波が怖い。」「自然災害多い。」「緊急時に孤立するため。」

【60代】

●愛着があるから。住み慣れているから(18件)

「生まれ育ったところだから。」「住み慣れた場だから。」「50年以上住み慣れている室戸だから。」「生まれた土地であり離れたくない。」「生まれ育ったところだから。」

●自然が豊かだから(13件)

「自然にめぐまれ、空気がきれい。」「自然の中で、水が美味しい。」「気候、風土が気に入っている」

●人が良いから(5件)

「友人・近所との関係が良いため。」「人間性のある町。」「人情が暖かいから人々の気持ちが優しい。」「周りの人たちの温かさに感謝することが多い。」

●医療環境が十分でないから(9件)

「病気になった場合、病院が遠い。」「整備の整った病院がないから。」「手術ができる病院がない(心臓)」「専門病院がない。」

●交通の便が悪いから(4件)

「交通が不便。」「交通手段がないので10年後考えると運転できるか不安。」「自家用車を持っていかなければ色々の面で不便です。」

●買い物が不便だから(3件)

「買い物不便。」「店に遠い。」

【70歳以上】

●愛着があるから。住み慣れているから(10件)

「長年の愛着。」「長いこと住めば都。」「生誕の地だから住み慣れた町だから。」「故郷だから。」

●自然が豊かだから(9件)

「自然環境がいい。」「自然が多く健康的な所。」「山が近く、海が近いので良い。」「空気がきれい。」「長く都会生活をしていたので、静かで自然の中で安心して暮らしている。」

●人が良いから(4件)

「人と人とのふれあい、近所の方がすごく温かい。」「人々があたたかい。」

●医療環境が十分でないから(6件)

「病院がない。」

「病院等も少ないので将来不安。」「もう少しちゃんとしたお医者様がほしいです。専門医が少ない。」「内科・外科、他の医者がいない。」

●不便だから(4件)

「自然があるが不便は多い。」

「住みたい環境が整備されていない。」「交通が不便。」

●災害が不安だから(3件)

「台風の災害が大きい。」「災害時、孤立化が不安。」

問5 今後、室戸市を活性化し人口を維持していくために、最も重視すべきことは何だと思いますか。

1位 安定した雇用を創出する	351人 (71%)
2位 新しいひとの流れをつくる	48人 (10%)
3位 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	40人 (8%)
4位 くらしの安心を守るとともに、地域と地域を連携する	33人 (7%)
無回答	21人 (4%)
	493人

問6 安定した雇用を作り出すために、最も重要なことは、どのようなことだと思いますか。

1位 サテライトオフィスやコールセンターの設置等による企業の誘致	168人 (34%)
2位 次世代型技術の普及や中山間地域の活性化による農業の振興	106人 (22%)
3位 漁業生産量の拡大や新たな加工品の開発による水産業の振興	105人 (21%)
4位 商品販売の促進による室戸海洋深層水の特性の活用	64人 (13%)
5位 原木生産の拡大や土佐備長炭の生産～販売体制の強化による林業の振興	20人 (4%)
無回答	30人 (6%)
	493人

問7 新しいひとの流れをつくるために、最も重要なことは、どのようなことだと思いますか。

1位 空き家や空き店舗を活用した、魅力ある拠点づくり	177人 (36%)
2位 室戸の自然やまちなみを活用した観光業の振興	90人 (18%)
3位 室戸市のPRや移住者へのサポートづくりによる移住の促進	87人 (18%)
4位 様々な媒体を活用したプロモーション活動、情報発信の強化	59人 (12%)
5位 室戸世界ジオパークセンターを活用した、新たな交流形態づくり	53人 (11%)
無回答	27人 (5%)
	493人

問8 結婚・出産・子育ての希望をかなえるために、最も重要なことは、どのようなことだと思いますか。

1位 働きやすい環境づくりや、就労支援による女性の活躍の場の拡大	138人	(28%)
2位 金銭面での助成や地域で支えあう仕組みづくりによる子育て支援策の充実	127人	(26%)
3位 若い世代の出会いの場創出や結婚支援による結婚の促進	87人	(18%)
4位 幼児期・小学校・中学校・高校における質の高い教育環境の整備	63人	(13%)
5位 出産助成制度や助産院開設による妊娠・出産のための環境整備	55人	(11%)
無回答	23人	(5%)
	493人	

問9 暮らしの安心・安全を守るとともに、地域と地域を連携するために、最も重要なことは、どのようなことだと思いますか。

1位 ハード・ソフト面の防災体制の強化による災害に強いまちづくり	153人	(31%)
2位 多世代交流による地域コミュニティの活性化	116人	(24%)
3位 小さな拠点の整備や移動手段の確保による中山間地域の維持・創生	109人	(22%)
4位 情報通信技術（ICT）の導入・有効活用	53人	(11%)
5位 公共施設等の利活用によるまちなみの保存・整備	29人	(6%)
無回答	33人	(7%)
	493人	

5. 高校生アンケートの結果

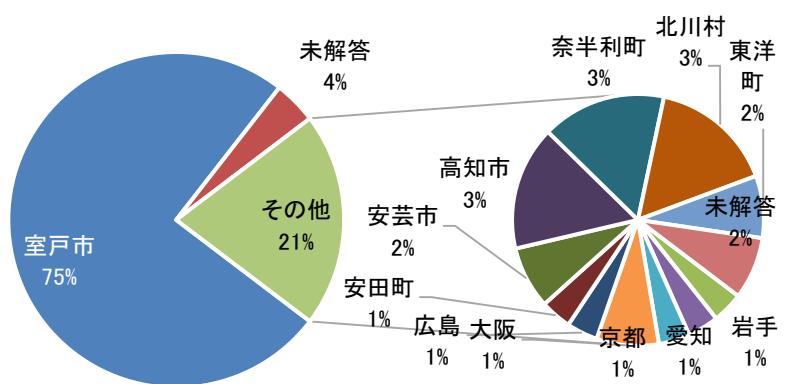
(1) アンケートの概要

- 対象：室戸高校の高校1～3年生、定時制の生徒118人
- 実施方法：筆記式アンケートを学校にて実施

(2) アンケートの結果

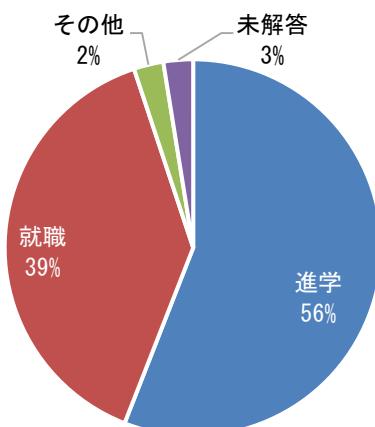
1. 出身地

室戸市	91人	(75%)
その他	22人	(21%)
無回答	5人	(4%)
<hr/> 118人		



2. 進路希望

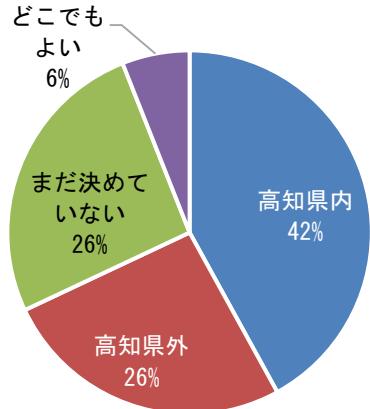
進学	66人	(56%)
就職	46人	(39%)
その他	3人	(2%)
無回答	3人	(3%)
<hr/> 118人		



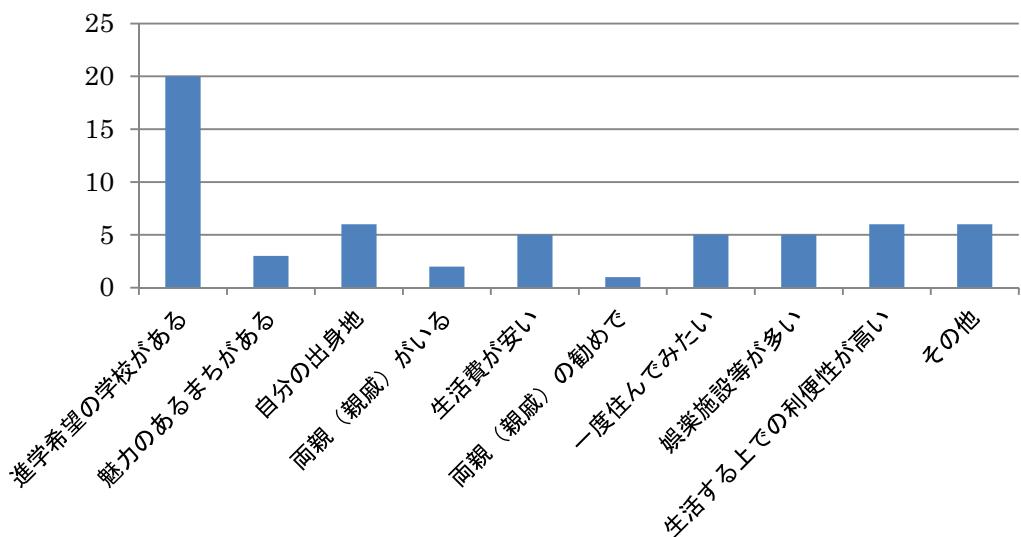
進学希望者(室戸出身)

1. 希望の進学先

高知県内	21人	(42%)
高知県外	13人	(26%)
まだ決めていない	13人	(26%)
どこでもよい	3人	(6%)
50人		

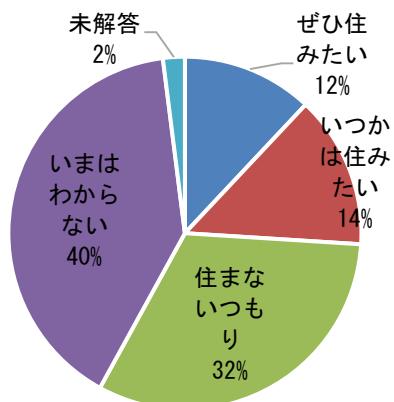


2. 進学先を決めた理由（複数回答）



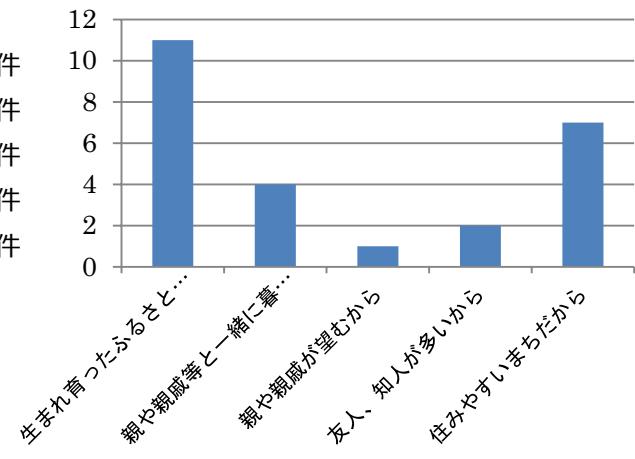
3. 卒業後、室戸市に住みたいか？

ぜひ住みたい	6人	(12%)
いつかは住みたい	7人	(14%)
住まないつもり	16人	(32%)
いまはわからない	20人	(40%)
無解答	1人	(2%)
50人		



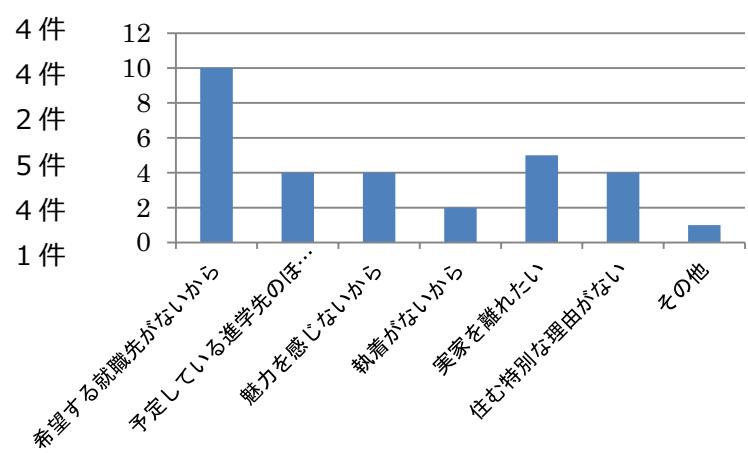
4. 「ぜひ住みたい」、「いつかは住みたい」と答えた理由（複）

生まれ育ったふるさとだから	11 件
親や親戚等と一緒に暮らしたいから	4 件
親や親戚が望むから	1 件
室戸市に友人、知人が多いから	2 件
室戸市が住みやすいまちだから	7 件



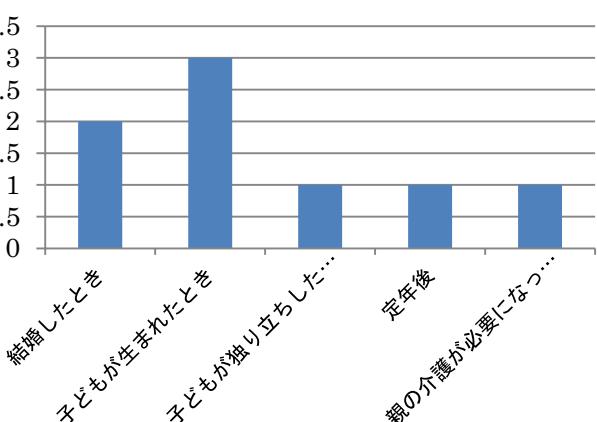
5. 「住まないつもり」と答えた理由（複）

室戸市に希望する就職先がない	10 件
進学先のほうが暮らすのに便利	4 件
室戸市に魅力を感じない	4 件
室戸市に執着がない	2 件
実家を離れたい	5 件
室戸市に住む特別な理由がない	4 件
その他	1 件



6. 「いつかは住みたい」と答えた人 その時期はいつか（複）

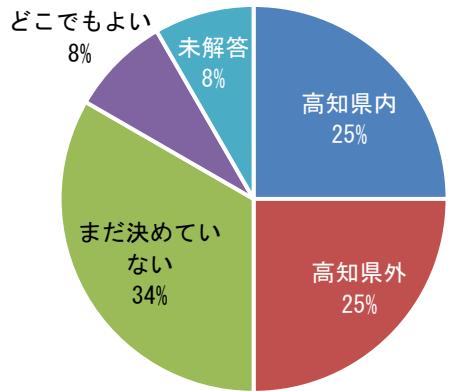
結婚したとき	2 件
子どもが生まれたとき	3 件
子どもが独り立ちしたとき	1 件
定年後	1 件
親の介護が必要になったとき	1 件



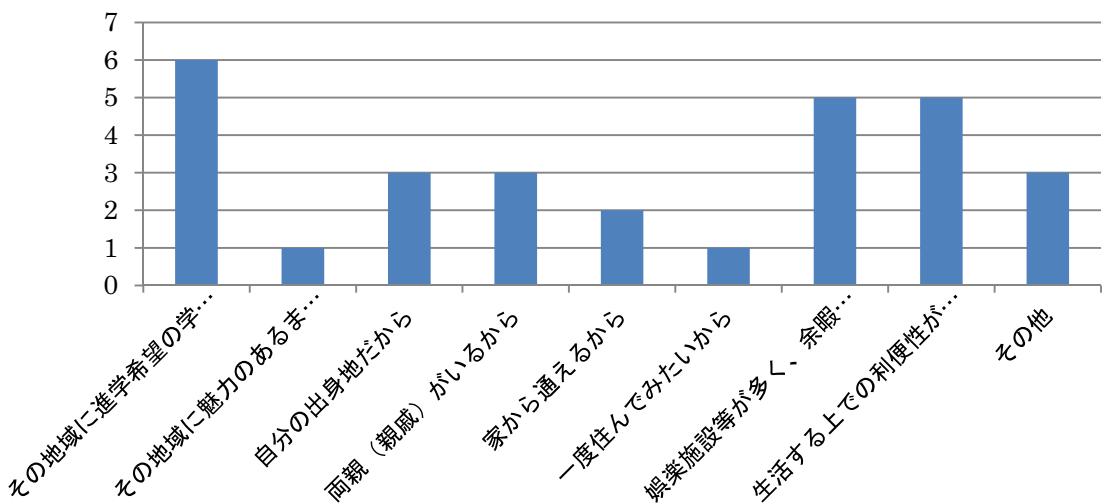
進学希望者(室戸市外出身)

1. 希望の進学先

高知県内	3人	(25%)
高知県外	3人	(25%)
まだ決めていない	4人	(34%)
どこでもよい	1人	(8%)
無解答	1人	(8%)
<hr/>		12人



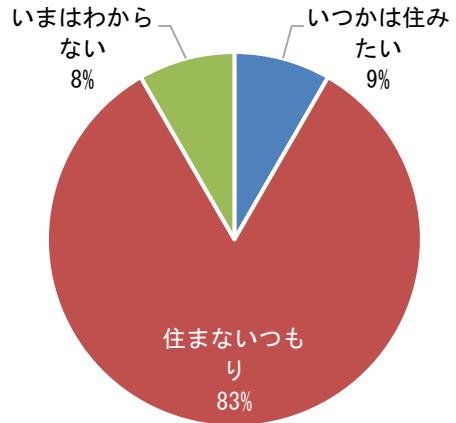
2. 進学先を決めた理由



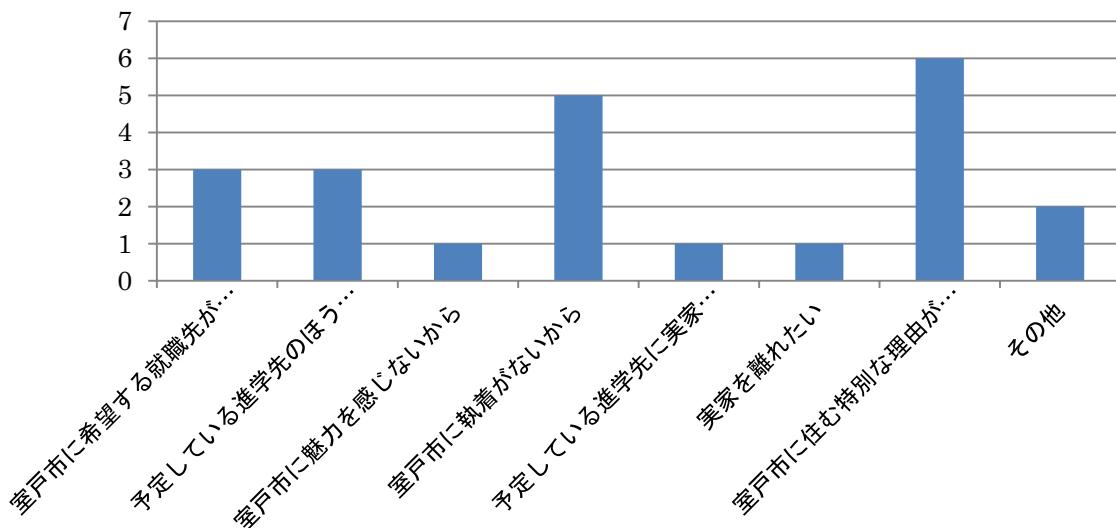
その地域に進学希望の学校があるから	6件
その地域に魅力のあるまちがあるから	1件
自分の出身地だから	3件
両親（親戚）がいるから	3件
家から通えるから	2件
両親（親戚）の勧めで	1件
一度住んでみたいから	2件
娯楽施設等が多く、余暇が充実しそうだから	5件
生活するまでの利便性が高いから	5件
その他	3件

3. 卒業後、室戸市に住みたいか？

いつかは住みたい	1人	(9%)
住まないつもり	10人	(83%)
いまはわからない	1人	(8%)
12人		



4. 「住まないつもり」と答えた理由（複数回答）

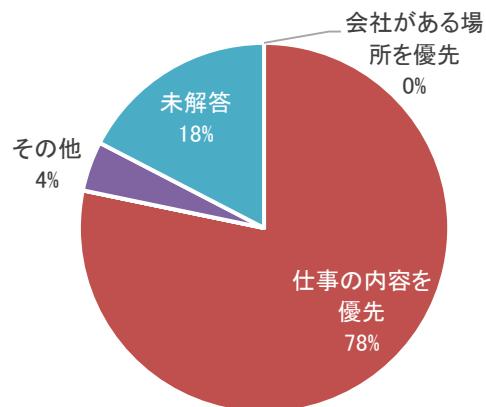


室戸市に希望する就職先がないから	3件
予定している進学先のほうが暮らすのに便利	3件
室戸市に魅力を感じないから	1件
室戸市に執着がないから	5件
予定している進学先に実家または親戚があるから	1件
実家を離れたい	1件
室戸市に住む特別な理由がない	6件
その他	2件

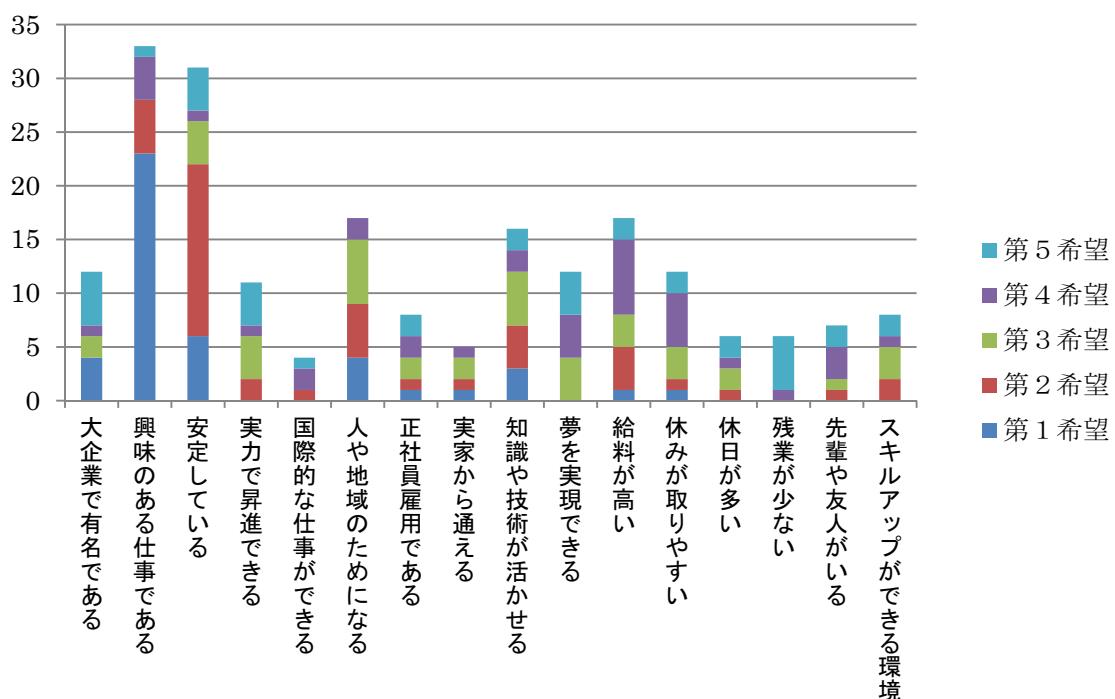
就職希望者

1. 就職先を選ぶ優先度

会社がある場所を優先	0 人	
仕事の内容を優先	36 人 (78%)	
就職できれば良い	0 人	
その他	2 人 (4%)	
無解答	8 人 (18%)	
<hr/>		46 人



2. 就職先を決める際の重要度



第一希望で最も多いかったのが「興味のある仕事である」で 23 人

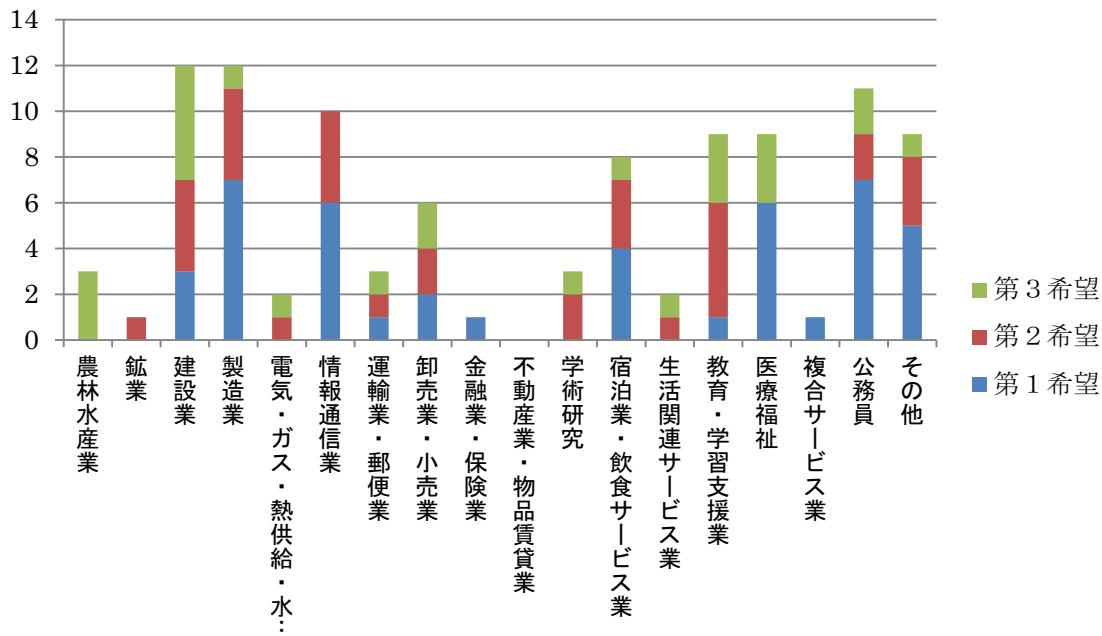
第二希望で最も多いかったのが「安定している」で 16 人

第三希望で最も多いかったのが「人や地域のために仕事ができる」で 6 人

第四希望で最も多いかったのが「給料が高い」で 7 人

第五希望で最も多いかったのが「大企業で有名である」「残業が少ない」で 5 人

3. 就職を希望する業種

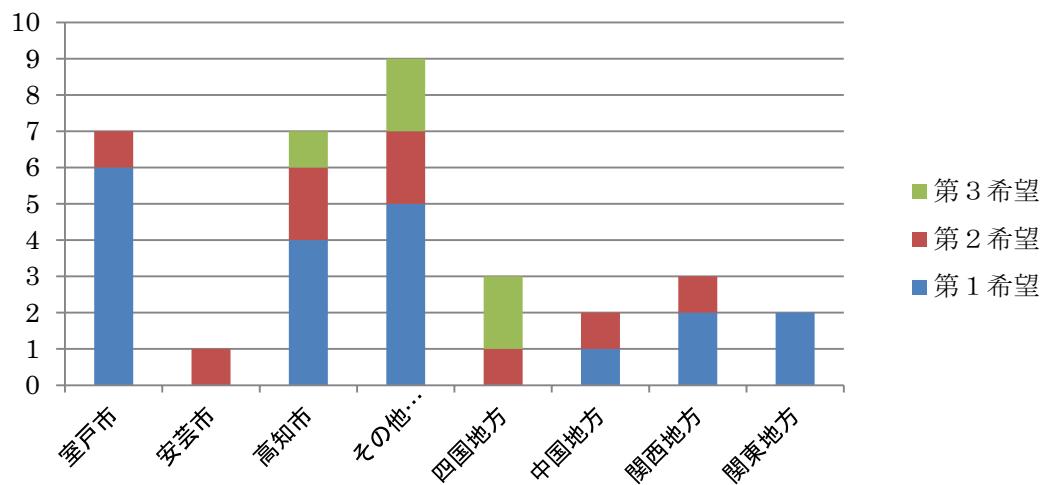


第一希望で最も多かったのが「製造業」「公務員」で 7 人、次いで「情報通信業」「医療福祉」で 6 人

第二希望は「公務員」のみで 1 人

第三希望で最も多かったのが「建設業」で 5 人、次いで「農林水産業」「教育・学習支援業」「医療福祉」で 3 人

4. 就職を希望する地域

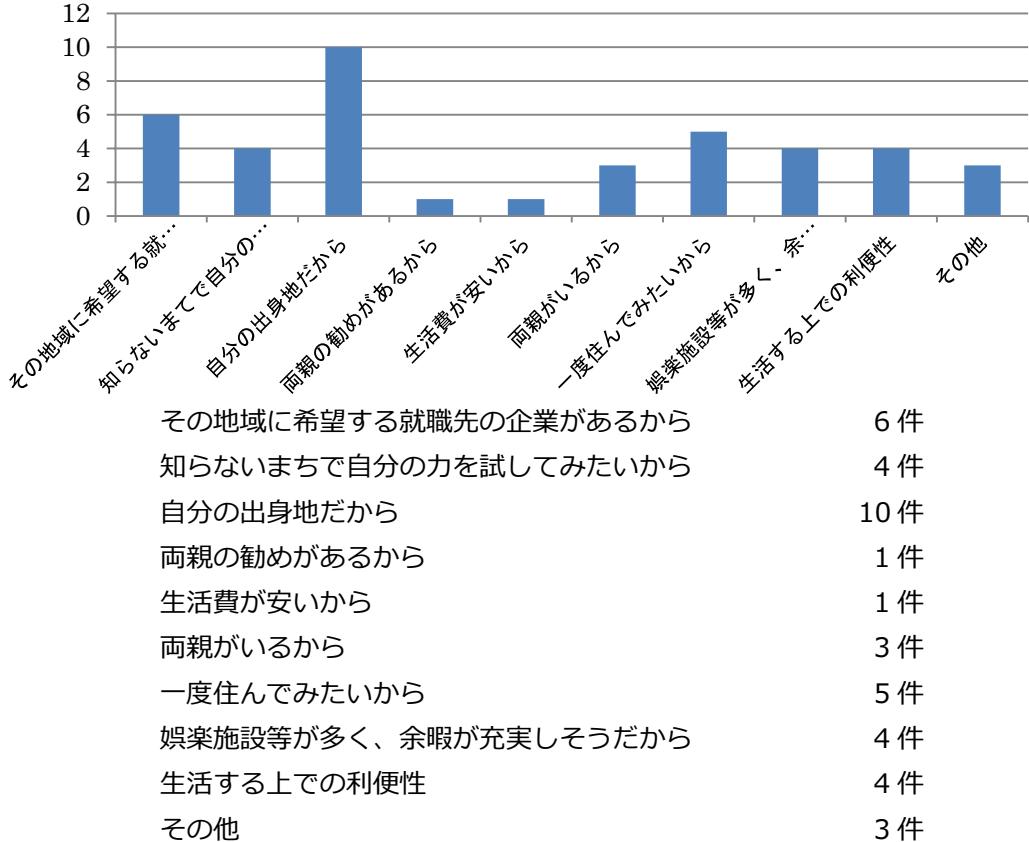


第一希望で最も多かったのが「室戸市」で 6 人、次いで「その他県内」が 5 人

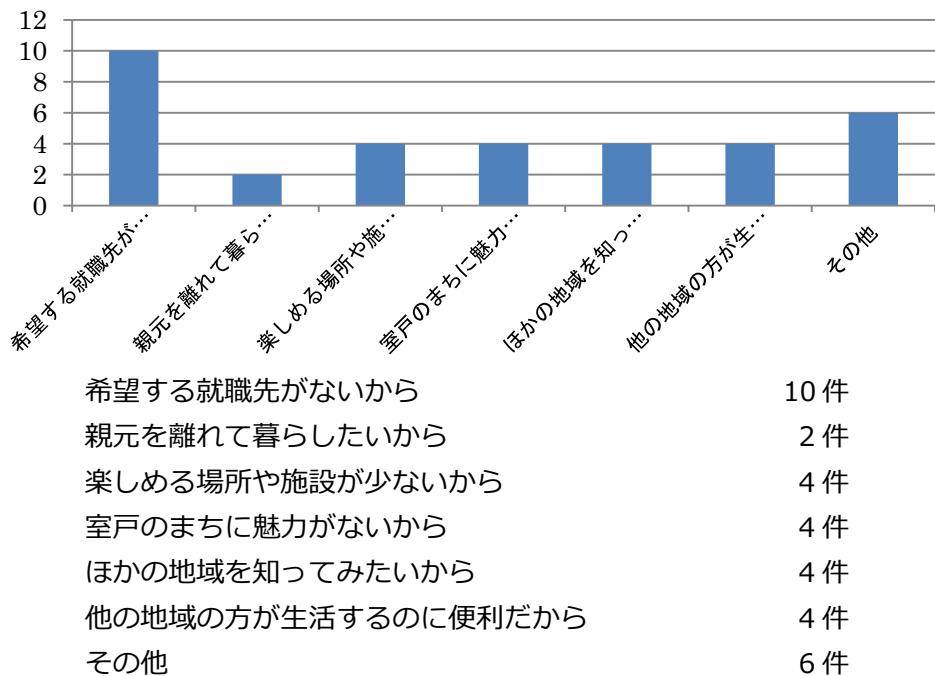
第二希望で最も多かったのが「高知市」と「その他県内」で 2 人

第三希望で最も多かったのが「その他県内」と「四国地方」で 2 人

5. 就職の希望地域を選んだ理由（複）



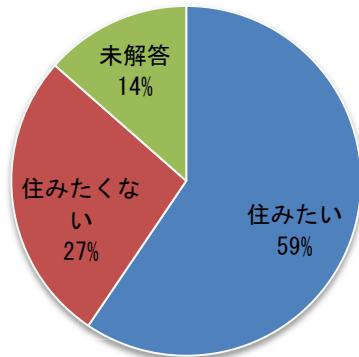
6. 就職の希望地域に室戸を選ばなかった理由（複）



6. 室戸市内で希望の仕事ができる場合、室戸に住みたいか

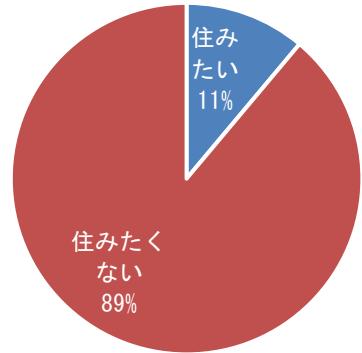
室戸市内出身者

住みたい	22人	(59%)
住みたくない	10人	(27%)
無解答	5人	(14%)
<hr/>		37人



室戸市外出身者

住みたい	1人	(11%)
住みたくない	8人	(89%)
<hr/>		9人



室戸市の人口減少問題について思うことを教えてください

●雇用を増やして欲しい

「雇用が少ないため、若者がどんどん都会や県外に出て行っている」「進学（高校以上）するためには室戸市を出なければならない。卒業後は、進学先の土地で就職したいという人が圧倒的に多くなる。室戸市内で仕事や学校を増やせばよい」「地元の食材で地産地消の仕事を増やす。高齢の方々で狩りに行く組織を作り、取れた肉などを調理・販売するような仕事をつくってはどうか」

●環境を整備して欲しい

「飲食店、スーパーが殆ど無く不便」「観光なら自然がある方が良いが、生活するとなった時に必要な物がすぐ手に入りにくいと思う。」「若い人も楽しめる町にしてほしい」「交通や生活の面で不便なので都会に行った人は室戸に戻りたくないと思う。もっと環境整備をして欲しい」「不要な建物が多い、土地自体が少し汚い。自慢できる物がない。」

●PR 不足

「もっと室戸市のいいところをアピールする（東部博・ジオパーク・市の特産品・室戸高校女子野球部）」「イベントを開催して地域を活性化させる。（祭り、若者向けのイベント）」「高校生が県外に出て室戸をPRしては」「海、山を活用してテーマパークを作る」